

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

Navigational Knowledge of Sea Life (Pwukof) in Satawal, Central Caroline Islands, Micronesia

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 秋道, 智彌 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00004332

航海術と海の生物

—ミクロネシアの航海術における *Pwukof* の知識—

秋 道 智 彌*

Navigational Knowledge of Sea Life (*Pwukof*) in Satawal,
Central Caroline Islands, Micronesia

Tomoya AKIMICHI

Pwukof is a basic item of traditional navigational knowledge among navigators in the Central Caroline Islands of Micronesia. *Pwukof* categorizes the sea life encountered when sailing in particular directions from individual islands. This paper describes the elaborate system of *pwukof* from 18 islands in Micronesia, using data from my fieldwork on Satawal Island.

Each set of knowledge of a given island contains sea birds, fish, other marine creatures, and oceanographic phenomenon, together with submerged reefs and islands. Fish and birds highlight the nature of this knowledge, since they are unique in having particular proper names, and in being endowed with behavioral and morphological features. Often these animals are inferred as esoteric and sometimes abnormal in appearance; *i.e.*, yellow frigate birds, barracuda in an upright position, swordfish with a coconut leaf ornament around the neck, a boneless shark, floating shellfish, or such phenomena of a pair of a croaking and a voiceless sooty terns, or a white-spotted and a non-spotted frigate birds, and the like.

Despite their probable emergence in certain sea areas, and accidental encounters *en route*, birds and fish designated in *pwukof* are believed to survive by means of self-recruitment, even after accidental capture or killing. This suggests that this knowledge has served not only for educational and recitational purposes, but also as a cognitive device for space allocation during voyaging, rather than as useful indications for actual location-finding and landfall *per se*.

* 国立民族学博物館第1研究部

I. 序 論	1. Pwukof のフォーク・インタプリテーション
1. はじめに	2. Pwukof の知識の性格をめぐって
2. Pwukof の知識とは	3. 海洋生物と海の図像学——結論にかえて——
II. Pwukof の分析	IV. 付録——Pwukof の資料
1. 記述内容の分析結果	
2. 知識の異同点	
III. 討論と結論	

I. 序 論

1. はじめに

広大な太平洋の大海原を船で旅したことのある人なら、さまざまな鳥や魚たちに出会ったことが一度でもあるにちがいない。群れをなして船のそばを泳ぐイルカや、魚をもとめて急降下するアジサシたち。海と空だけの単調な外洋環境に出現するこうした海の生物たちは、おなじ場所にじっとしているわけではけっしてない。エサをもとめて空や海を自由にうごきまわり、あるいは波にまかせてただよっている。

遠洋航海という生活手段を通じて、こうした海の生物たちに慣れ親しむミクロネシアの航海民たちは、一見、きままで無作為な生物たちの存在を自らの航海術の知識としてたくみに取りこんでいる。ミクロネシアのカロリン諸島一带では、ある島から特定の方位にむかってカヌーをすすめると、特定の名前をあたえられた鳥や魚にならず出会うという内容の知識がしられている。Pwukof とよばれるものがそうである。

人びとは、なぜ1カ所にじっとしているはずのない鳥や魚に特別の名前をあたえ、それを何のために利用し、どういう目的でそうした知識を世代から世代へと伝承してきたのであろうか。

本論では、サタワル島における筆者の野外調査をもとに、Pwukof とよばれる航海術の知識について記述と分析をおこなってみたい。そして、ミクロネシアの航海民が海の生物にたいしてどのような観念や知識の体系をもっているのかについて、その一端をあきらかにしてみたい。

2. Pwukof の知識とは

Pwukof というのは、ある島からみて、どの方位にどのような生物・海洋現象が出現するのかを島ごとに網羅した知識である。既発表の Woofanúw という知識が島嶼

間の方位関係を体系化したものであったのにたいして [秋道 1984: 651-709], Pwukof はおもに生物現象のあらわれる方位に関するものであるという特徴がある。

例をあげよう。たとえば、ヨールピック環礁からみて、tupwui tumwur とよばれるサソリ座のアルファ星が沈む南西の方位には、Nimwáremwár という固有名称の1匹のエイが出現する。このエイの首のまわりには、白い飾りがついているという特徴がある。wenewenenupw (南十字座が南中する真南) には、Worhánifena という名称のサンゴ礁がある。このサンゴ礁には、fena すなわちサヨリがいるという。このようにして、ヨールピック環礁の周囲には、19の異なった方位に特定の島や生物があらわれる(付録の事例3を参照)。

こんどはウォレアイ環礁の場合、島から wenewenenupw, すなわち真南に Yan-úrang という固有名称をもつ1羽のネッタイチョウが出現する。しかもこのネッタイチョウはふつうのように白い色をしているのではなく黄色をしている。結局ウォレアイ環礁の周囲には28の方位に特定の島や生物が出現する(付録の事例4を参照)。

このようにして、ある島のまわりに出現する魚や鳥、あるいはサンゴ礁について、その名称、特徴となる部分や習性を、航海術でもちいられる方位名称にしたがって網羅したのが Pwukof とよばれる知識である。

Pwukof の知識は、ミクロネシアの航海術に関する知識のなかで、たいへん重要な性格をもっている。というのは、少年が一人前の航海者となるために修得すべきさまざまな知識のなかで、Paafuu (円周上で32の方位をもつスター・コンパスを記憶すること)、Yarowumw (スター・コンパス上で相対する方位の対を記憶すること)、Yamas (スター・コンパスの中央にカヌーを想定し、そのカヌーの船首、船尾、アウトリガー側、プラットフォーム側の延長線上にそれぞれあたる4つの方位を1つの組として記憶するもの)、Wooфанúw (ある島からみて別の島が位置する方位をスター・コンパスの方位名称をもとに島ごとに網羅的に記憶するもの)、の4項目について修得すべきものとされているからである。以上のべた4項目については、筆者による既発表の2論文のなかでとりあげた [秋道 1981a, 1984]。

サタワル島に近接したラモトレック環礁やプルワト環礁で調査をおこなった米国の人類学者らは、Pwukof の存在について言及はしているが(たとえば、Riesenberg による Pukoof), その内容に関してはいっさい記述をおこなっていない [ALKIRE 1970; GLADWIN 1970; RIESENBERG 1976]。

Pwukof は、pwukopwuk, すなわち「結ぶ」ということばに由来する。したがって、1つの島が多く生物・海洋現象によって結ばれるという解釈がもっとも妥当で

あろうとおもわれる [SAUCHOMAL 1982]。Riesenberg や Gladwin などは、プルワト環礁における調査から、この Pwukof について言及するさい、Sea Life, すなわち「海の生物」ということばを適用している [GLADWIN 1970; RIESENBERG 1976]。

Pwukof は、島ごとにその内容が異なる。そしてたとえば、ラモトレック環礁（現地語名で Nómwéchok）における Pwukof は、Pwukofin Nómwéchok、プルスク島 (Sowuk) における Pwukof は、Pwukofiy Sowuk とそれぞれよばれる。本論では、サタワル島をふくめた合計18の島についての Pwukof の知識を対象としている。それらは、ソロール環礁、ヨールピック環礁[‡]、ウォレアイ環礁、イファルク環礁[‡]、ガフェルト島、エラート環礁、ラモトレック環礁、ウエスト・ファーフ島[‡]、サタワル島[‡]、ピケロット環礁[‡]、タムタム島、プルスク島[‡]、プルワト環礁[‡]、ブンラップ環礁、ウルル島[‡]、トラック諸島[‡]、ロサップ環礁、オロルーク環礁[‡]である。そのうち10の島（前記、[‡]のもの）については、複数のインフォーマントから情報をえた。事例の数は全部で36例である。これらは付録として第IV章に一括して記述した。

Pwukof の知識に関するインフォーマントは、サタワル島における男性5名である。本論では、Ep, Mg, Rp, Ik, Ew という記号によりそれぞれのインフォーマントをあらわすことにする。なおサタワル語の記載事項と表記方法については、調査当時、助手をつとめた Sabino Sauchomal 氏（現在、グアム大学所属）により検討をうけた。再三ではあるが、サタワル語の表記については、筆者のこれまでの発表論文でもちいた要領にしたがうことを確認しておく [秋道 1980, 1981a, 1981b, 1981c, 1984]。

II. Pwukof の分析

1. 記述内容の分析結果

(1) 生物・海洋現象の出現方位数

Pwukof の知識のなかで、特定の生物現象・海洋現象が出現するとのべられている方位数は、それぞれの島ごとに異なっている。たとえば、サタワル島の場合、4人のインフォーマントを通じて32の方位のうち31の方位について、何らかの事象が出現するとされている。一方、エラート環礁における場合、その数はサタワル島の約半分に相当する16である。また、同一の島でもインフォーマントにより言及された方位の数は一般的に異なる。第IV章に記載したすべての事例をこみにしてみると、島ごとに言及されている方位数の平均は 24.4 (N=36, SD=5.29) である。

この数字は、Woofanúw の知識のなかで特定の島が出現するとして言及される方位数よりも一見して多いようにみうけられる。この点を確認するため、Woofanúw と Pwukof において言及されるさまざまな現象の出現方位数を島ごとに比較した。対象として、Woofanúw と Pwukof の両方について資料が利用できる18の島 (Pwukof で記載したものすべて) をえらび、とくに同一の島で複数の情報がある Pwukof の場合については、出現方位数をもっとも少ない事例を採用した。その結果、Pwukof における方位数のほうが、Woofanúw の場合よりも多いことがわかった ($t=3.16$, $p<0.01$)。

(2) 島／地理・海洋現象／生物現象の比率

つぎに、Pwukof の知識のなかで、どのような現象が言及されているのかをしらべるため、Pwukof の内容を以下のように大きく3つにわけて集計した。第1は、実在する島、第2は、架空の事物か、実在するとしてもその確認が困難な地理的現象や海洋現象、第3は、架空、実在にかかわらず、生物とみなされている現象である。第1のなかには、北太平洋海域における縮尺200万分の1の海図上で示された島で同定可能なものをふくむ。第2のなかには、架空とおもわれる島や、名称があっても同定不可能な島やサンゴ礁、海面の状態やあわ、水路などがふくまれ、第3のなかには、魚、鳥、クジラ、貝など、本論で主要な分析対象となる生物現象がふくまれる。流木は植物であるという点で生物現象とみなした。

それぞれの島ごとにのべられている現象を、以上あげた3区分をもとに集計し、その出現数の百分率をもとめた。そのさい、同一の島で複数の情報がある場合でもそれぞれを別個のものとしてあつかった。その結果、上記の3つの間には、出現にかたよ

表1 Pwukofの知識における島／地理・海洋現象／生物現象の言及される頻度差

		(数字は島ごとの出現百分率)		
		生物現象	地理・海洋現象	実在する島
平	均 (x̄)	0.475	0.276	0.223
標	準 偏 差 (SD)	0.262	0.217	0.185
現 象 名		t	p	有意差*
生 物 現 象 と 島		4.65	$p<0.001^*$	あり
島 と 地 理 ・ 海 洋 現 象		1.10	$p>0.2$	なし
生 物 現 象 と 地 理 ・ 海 洋 現 象		3.46	$p<0.001^*$	あり

りがみられた。すなわち、島やサンゴ礁などくらべて、生物現象がもっとも多く言及されている。ただし、実在する島と、それ以外のサンゴ礁や海の状態をあらわす海洋現象との間には、差がみとめられなかった（表1）。

(3) 1方向あたり言及される現象の数

1方向についてのべられる現象の数を、第IV章に記載した827例すべての場合について検討した。頻度からみると、1つの現象のみ言及される場合がもっとも多く、全体の約90%をしめる。ついで2つの現象がのべられている場合が6.5%、3つ以上の場合は1%あるいはそれ以下である。1方向でもっとも多くのべられているのがプルワト環礁の場合で、これには9つの現象がふくまれる。

(4) 出現する現象の種類

上記(2)でのべた3区分にもとづき、出現する現象の種類をそれぞれの場合にわけて検討した。

a. 島

北太平洋上に実在する島で、Pwukof にあらわれるものは全部で47ある。Pwukof の知識のなかで実在する島を特定の方位との関連でのべた部分は、Woofanúw の知識内容と性格がおなじである。筆者のあつかった資料では、ミクロネシアの全領域がふくまれていないが、現資料だけを見ると、Woofanúw と Pwukof のうち、いずれにおいても言及されていない島じまがある。それらは、マーシャル諸島や東カロリン諸島のモキール島、あるいは西カロリン諸島のソンソロル島、トビ島、北のマリアナ諸島、南のカピングマランギ環礁などであり、いずれもミクロネシアの周辺部に位置する島じまである。

なぜ周辺の島じまについて知られていないのかという理由として、2つのことが考えられる。1つは、サタワル島がカロリン諸島全体でほぼ中央に位置することから、周辺部の島じまのことがあまり知られていないことによるのではないかという見方である。もう1つは、周辺の島じまで航海術自体がおこなわれなくなった、あるいは中央カロリン諸島と周辺部の島じまとの交渉がなくなったため、そうした知識がわずれさられたという可能性である。基本的には、後者による影響が大きいのではないかと筆者は考えている。

また、ある方位に島があれば、かならずその島が Pwukof のなかでも言及されるかというところとはかぎらない。たとえば、ラモトレック環礁の Pwukof (事例9) で、Woofanúw と共通するのは、エラート、オリマラオだけで、Woofanúw でのべられ

ているウエスト・ファーユ、ピケロット、サタワル、プルウト、ガフェルトなどの島はふくまれていない。そのかわり Pwukof では、マグロ、エイなどの魚が出現するとべられている。

b. 地理・海洋現象

架空とおもわれる島、あるいはその実在を確認することが困難な島、サンゴ礁、波の状態などの現象は、Woofanúw および Pwuupwunapanap に関する知識のなかでもとりあげられていた [秋道 1981b, 1984]。ただし、Pwukof に登場するサンゴ礁のなかには、単に名前だけでなく、特定の魚がいるとか、ウニがたくさんとれる、あるいは漁撈活動に適するといった付帯的な情報がインフォーマントによりあたえられている。この点については(7)固有名称と実態との関係の項でのべる。

ある島の Pwukof をみると、この項目に該当する現象が実在する島や他の生物現象にくらべて顕著に多い場合がある。たとえば、無人島であるピケロット環礁の Pwukof の場合、出現する全現象のうち、100% (事例16)、66.7% (事例17) がそれぞれサンゴ礁であり、生物現象はいっさい言及されていない。同様にオロルーク環礁（これは有人の島）でも、約68%がサンゴ礁であり、のこりは実在の島となっている。これらは、Pwukof というより Woofanúw の知識といってもさしつかえのない内容となっている。もちろん、この2人のインフォーマントによりえられたピケロット環礁の Woofanúw と Pwukof の知識を比較・検討すると、まったく同一というわけではなく、Woofanúw ではサンゴ礁以外に実在する島が言及されている。Pwukof と Woofanúw の内容はあくまで異なっているのである。

海洋現象自体の出現数はそれほど多くはない。このなかには、海のあわ、ナギの状態、非常に波の荒い場所（以上それぞれ2例）、海のもりあがり（1例）などがふくまれるにすぎない。

c. 生物現象

第IV章でのべたすべての資料からえられる生物現象は477例ある。そのなかにくくまれるのは、鳥類、魚類、およびそれらの群れ、水棲哺乳類、昆虫類、植物（流木と海藻）、甲殻類、爬虫類、両棲類、貝類などである（表2）。

つぎに、それぞれの生物種類についての出現頻度を集計した。1つの島で複数の情報がある場合、もっとも多くの方位について現象が言及されている事例を抽出した。全体として採用したものの事例番号は、1, 2, 4, 6, 7, 8, 9, 11, 14, 17, 18, 21, 25, 26, 27, 30, 33, 36の18例である。

出現する生物の個体数は、たとえば1匹とか2頭、群れといったように、それぞれ

表2 Pwukof にあらわれる生物名一覧表

魚 類	サタワル語名	和 名	英 語 名
	cchep	ヒラアジ	great trevally
	fááriyap	エ イ	ray
	fayi	エ イ	ray
	fena	サヨリ	half beaks
	fofo	ツムブリ	rainbow runner
	máám	タレクチベラ	double-headed Maori-wrasse
	máyimén	マツダイ	jumping cod
	mengar	トビウオ	flyingfish
	mongowuruur	サ メ	shark
	mwárefarh	ミヤコテング	orange-epaulette surgeonfish
	mwúnáyinómw	ツバメウオ	batfish
	néérh	フ グ	puffer
	ngáán	サワラ	wahoo
	niimwéy	サ メ	shark (immature)
	niyóóma	ハ ギ	leatherjacket
	pááw	サ メ	shark
	pááwnikáp	サ メ	shark
	pwóópw	サ メ	shark
	pwene	バラハタ	fairy cod
	sángir	マグロ	tuna
	senganangan	セナスジベラ	six-barred wrasse
	sepór	シイラ	dolphinfish
	sera	トガリエビス	spiny squirrelfish
	seraw	カマス	barracuda
	songoong	ヒメジ	goatfish
	takúnaar	カジキマグロ	swordfish
	takúnúworh	ダ ツ	long-tom
	tánepap	?	
	woomey	ヒメジ	golden-banded goatfish
	wumwuné	アイゴ	rabbitfish
	wurha	ブダイ	parrotfish
	yárengaap	カツオ	bonito
	yetam	ヒラアジ	great trevally
	yikáyiné	タ イ	sea-bream
	yóppw	イトヒキアジ	pennantfish
その他の水棲動植物			
	kúús	タ コ	octopus
	kúúw	イルカ	dolphin, porpoise
	masos	小型のクジラ	whale (small)

秋道 航海術と海の生物

nifaifai	貝	shellfish
nifeírorh	貝	shellfish
numunuworh	海藻	seaweeds
numw	海藻	seaweeds
raaw	クジラ	whale
sáyúwaanú	ウミヘビ	sea snake
wong	アオウミガメ	green sea turtle
yamaw	カニ	crab
yúúr	エビ	lobster

鳥 類

kiyakiy	シロアジサシ	white tern
kuniing		plover
kurukaak	クロアジサシ	noddy
mwiw		starling
nicchok		bush warbler?
nikirhowur		common migratory shore bird
nirhokusarepwén		small plover
nisingér		tern
paiennái		
púngúpáánci		
reerh	グンカンドリ(小型)	
sepan		small plover
súúk	ネッタイチョウ	tropic bird
yaraar	コアジサシ	sooty tern
yasaf	グンカンドリ	frigate bird
yeré	サギ	heron
ysin		
yómó	カツオドリ	boody

その他の動物

koos	チョウ	butterfly
nipwoipwok	チョウ	butterfly
worhááp	トンボ	dragonfly
worhápináng	トンボ	dragonfly

異なる。その出現個体数にかかわらず、生物とみとめられたものの出現頻度を1として集計した結果、全体で258例の生物現象がふくまれていた。そのうち、鳥と魚からなる群れ (pwáá と称される) をのぞいた256例のなかで、鳥ではグンカンドリが33例 (12.9%)、つづいてネッタイチョウ15例 (5.9%)、カツオドリ10例 (3.9%) の順に多く、魚・水棲哺乳類では、サメ21例 (8.2%)、クジラ18例 (7.0%)、カジキマグロ14例 (5.5%)、イルカとエイがそれぞれ10例 (3.9%) の順に多く出現することが

わかった。

また、海面上、あるいは水中に存在するもの（魚・哺乳類・貝・カニ・流木）の合計は150例、空中に存在するもの（鳥・チョウ・トンボ）の合計は106例であり海に存在するもののほうが多い。種類数で見ると、海に棲息するもの（31種類）は空中の動物（17種類）より倍ちかく多い。ただし、海と空による区別はそれほど重要でないかもしれない。というのは、鳥であってもつねに空中を飛んでいるのではなく、海面上を浮かんでいたり、流木にとまっている場合（あるいは海中にもぐって魚をとる場合）もあるからである。

(5) 生物現象の形態、習性、色などの特徴

特定の名称をあたえられた生物には、色、形態、行動などの特徴に関するさまざまな説明がくわえられている。

a. 行動様式

鳥の場合、鳴く／鳴かないとか、流木にとまっている／いないといった区別がもっとも多くあらわれる。たがいにあらそっているグンカンドリ（事例10）、2羽の鳥がカヌーの両側をそれぞれまわりながら飛んでおり、一方が鳴き、他方が鳴いていないといった例（事例21）はむしろ例外的である。

魚、クジラ、イルカなどの水棲動物の場合、跳躍しているという説明がもっとも多い。特殊な場合として、頭を垂直上、あるいは下にむけているカマス（事例18と21）や、頭を東に向けているヒメジ（事例3）やクジラ（事例25）、あるいは腹を南にむけているミヤコテング（事例30）のように、特定の方位との関係を明示した例がある。サメやクジラの場合、人間にとって危険な存在であるとか安全であることが言及されていることもある。

b. 形態

鳥、魚ともに、羽が切れてボロボロになっているとか、一本脚の鳥、尾のない鳥、尾のとげや背びれのない魚、首や背びれ、胸びれ、尾にココヤシの若葉の飾りをしている魚、あるいは背中がくさったクジラといったように、異常な形態をしていたり、ココヤシの葉のかざりをするといった場合のように、あきらかに架空の存在とおもわれるものがある。大きさについては、非常に大きいとか小さいといった区別のほか、具体的に1ヒロ、片腕長、両手をひろげたときの大きさといったように具体的に指定されている場合はほとんどない。

c. 色

色としてのべられているのは、白色、黒色、赤色、黄色、褐色、青色であり、とくに白、黒、赤が多く出現する。注目すべき点は、体が黄色のエイやネッタイチョウ、ヒラアジ、サメ、ミヤコテング、外鰓孔の赤いサメ、羽の色が赤いネッタイチョウ、胸や腹の白いグンカンドリ、頭の白いサメといったように、異常な体色をした生物が多く言及されていることである。ただし、ふつうの色をしているとおもわれる場合でも、黒いグンカンドリとか、白いカツオドリといった説明がなされることもある。わざわざそのことがのべられている理由については不明である。

(6) 出現生物の個体数

ある方位に出現するとされている特定生物は、かならずしも鳥1羽、魚1匹といったように単独個体であるとはかぎらない。そこで、それぞれの島における Pwukof の例から前述した18の事例をとりあげて、生物の個体数に関する傾向をしらべた。その結果、全体の約70%は単独で出現する場合で、約10%が2羽とか2匹出現する場合であった。鳥や魚が群れとしてあらわれる場合は全体の13.3%となっている。群れをあらわすことばとして、yewumw, pwáá, cchon, wie などがあるが、それぞれのことばが具体的に何匹の魚とか、何羽の鳥に相当するかといったことが意味のうえで弁別されているわけではない。

(7) 固有名称と実態との関係

個々に出現する現象には、固有の名称があたえられている。島以外のサンゴ礁や生物現象の名称をしらべてゆくと、なかにはその名称が実際の現象と何らかの関係をもつことを言語的に示唆するものがふくまれている。たとえば、事例2の方位17にある Yúrúyón の Yúr-はエビ (yúúr) をあらわす。事例12と13の Serawánimwár は、カマス (seraw) をあらわす。事例11の方位4にある Worhánipwóópw というサンゴ礁の名称自体は、サンゴ礁をあらわす woorh と、サメの一種をあらわす pwóópw という意義素にわけることができる。実際、このサンゴ礁に関する付加的な情報として、pwóópw というサメがたくさんいるということがのべられている。事例21の方位15にある Yúnúmwarátá と方位19にある Yúnúmwarútiw はともにカマスをあらわし、一方が頭を上にもむけ、他方は下にもむけている。この2つの固有名称の語尾にある -tá と -tiw は、事物の運動する方向をあらわす接尾辞で、-tá は「手前のほうに」、-tiw は「向こうのほうへ」という意味をそれぞれあらわす。

以上のように Pwukof には、特定の事象にあたえられた固有の名称が、その実態、あるいは状態を言語的に示唆する場合がふくまれている。また、固有名称が不明であ

ったり、名称なしといった場合もあった。残念ながら、名称がないという場合の積極的な意義をたしかめることができなかった。

さらにおもしろいことに、Pwukof にあらわれる固有名称がそのまま人名としてもちいられることがある。Pwukof の名称が先か人名が先かといったことは不明であるが、重要なことはいったんその人が死んでしまうと、Pwukof のなかでもちいられていた固有名称も変更されるという点である。Pwukof にふくまれる名称と同じ名前をもつ人びとがどのくらいの数いるのかについてすることは不可能にちかいが、少なくともこうした場合を通じて、Pwukof の名前自体が時間的に変化する可能性があることがわかる。

筆者は Woofanúw の分析のなかで航海術の知識内容のインフォーマントによる異同についてとりあげたことがある [秋道 1984]。北太平洋海域の海図で島嶼間の方位を調べた結果、個人差や情報のまちがいがみとめられたものの、Woofanúw の知識自体はその性格上、遠洋航海の指針として一定の汎用性と有効性をもつことがあきらかになった。

一方、Pwukof の場合、その内容や情報は個人の間でどの程度、一致点や相違点をもつといえるのだろうか。そして、その結果がどのような意味をもっているといえるのだろうか。

サタワル島における5名のインフォーマントは、Pwukof の知識を習得するさいに、たがいに情報を交換したわけではないし、おそわった先生にあたる人物も同一ではないことをたしかめている。ただし、5名のインフォーマントのいわば先生にあたる人がすでに死亡しており、その人びとがさらにどのような人から知識を伝授されたのかについてあきらかにすることはできなかった。そこで、とりあえずこれまで記載した全資料を検討し、個人間でみられる情報のズレを、(1)記載内容、(2)島嶼間の方位関係にわけてしらべてみた。

2. 知識の異同点

(1) Pwukof の記載内容の比較

まず最初に、4名のインフォーマント (Ep, Mg, Rp, Ew) からえられたサタワル島の Pwukof (事例12~15) を比較した結果からのべることにしよう。

4名の間で、生物の名称と種類、さらに出現する方位がすべて整合したのは、表3にしめした4例 (Yoniwa, Nukéisomw, Mesórumeyéér, Naifáinúk) である。たとえば、南十字座が南中する方位 (=真南) には、Naifáinúk という名称のグンカンド

表3 サタワル島における Pwukof の情報に関する変異

1. 方位番号28にあらわれるクジラ

情報提供者	現地語名	実態	付带的状況
Ep	Yoniwa	約10頭のクジラ	カヌーを破壊する。1頭は白い。
Mg	Yoniwa	クジラの群れ	危険である。
Rp	Yoniwa	非常に多くのクジラ (約300頭いる)	カヌーを破壊する。危険。Rp は実際に遭遇したことがある。色は黒と白。
Ew	Yoniwa	約7～8頭	小さい。

2. 方位番号23にあらわれるネッタイチョウ

情報提供者	現地語名	実態	付带的状況
Ep	Nukéisomw	1羽のネッタイチョウ	なし
Mg	Nukéisomw	1羽のネッタイチョウ	大きい。
Rp	Nukéisomw	1羽のネッタイチョウ	大きい。よく遭遇することがある。
Ew	Nukéisomw	1羽のネッタイチョウ	大きい。羽は赤い色をしている。

3. 方位番号18にあらわれるコアジサン (Ew の場合の方位番号は16)

情報提供者	現地語名	実態	付带的状況
Ep	Mesórumeyéér	1羽のコアジサン	鳴いていない。
Mg	Mesórumeyéér	2羽のコアジサン	鳴いていない。Rp は、1975年、プルスク島とサタワル島間の海域で遭遇した。
Rp	Mesórumeyéér	2羽のコアジサン	鳴いていない。眼は褐色で上に隆起があり、羽根はよごれてきたない。
Ew	Mesórumeyéér	2羽のコアジサン	鳴いていない。

4. 方位番号17にあらわれるグンカンドリ

情報提供者	現地語名	実態	付带的状況
Ep	Naifáinúk	1羽のグンカンドリ	なし
Mg	Naifáinúk	1羽のグンカンドリ	胸は黒と白。
Rp	Naifáinúk	1羽のグンカンドリ	色は黒い。白い斑点なし。
Ew	Naifáinúk	1羽のグンカンドリ	胸は白い。

リが1羽出現する、という情報は4名の間でおなじである。ただし、名称が同じであっても、生物の数やその特徴といった細部において、4名が同じ情報を持っているわけではないことがわかる。たとえば、Yoniwa というのはクジラであることは4名の間で共通しているが、その数や特徴にたいする知識内容は異なっている。すなわち、

Ep によると、Yoniwa というのは「約10頭のクジラで、カヌーを破壊する。そのうちの1頭の色は白い」という。Mg の情報では、「群れをなしており、危険である」となっており、Rp は「約300頭と多く、カヌーを破壊する。実際に遭遇したことがある。色は黒と白である」という。Ew は、「約7～8頭おり、小さい」という。

上にのべたもの以外の例では、名称、種類、出現方位のいずれかあるいは2つ以上の点で異同がある。Mesórumeyéér と Mesórumeyefáng の場合についての例をのべよう。

Ep, Mg, Rp の間では、Mesórumeyéér と Mesórumeyefáng という名称の鳥が隣りあった方位（方位番号18と19）に出現する。しかし、Ew の場合、出現方位は前三者と異なって少しはなれている（方位番号16と18）。

Mesórumeyéér は鳴いておらず、Mesórumeyefáng は鳴いているという特徴は4名とも同じである。しかし Rp では、さらに Mesórumeyéér の羽根が汚れており、しかも眼のうゑに隆起があるのにたいして、Mesórumeyefáng には眼のうゑに隆起がないという特徴が指摘されている。

Ep, Mg, Rp の場合、Mesórumeyéér と Mesórumeyefáng は yaraar という鳥（コアジサシ）であるが、Ew の場合、paiennái という鳥（同定不明）である。鳥の数は、Ep の場合で1羽、Rp と Ew の場合では2羽、Mg の場合には、Mesórumeyéér が2羽、Mesórumeyefáng が1羽となっている。

コアジサシが鳴いていないという特徴は、4名ともおなじであるが、Rp によるとさらにこのコアジサシの眼の色は褐色で、羽根は汚れており、しかも眼の上に隆起があるという情報が追加されている。

サタワル島の Pwukof 以外の例を検討すると、以上のべたような異同点のほかにも、出現する生物の種類や名称がかならずしも全員のあいだで一致しないとか、出現する生物の名称や特徴はおなじであるのに、インフォーマントによっては出現する方位がズレているといった場合がある。たとえばプルスク島の例では、3名のインフォーマントの間で鳥の種類や数はかならずしも一致しないが、Yúnútongotong という名称をおなじくする島が方位12に出現する。

(2) 島嶼間における Pwukof の比較

ある島を基準として、特定の方位にある特徴をもった鳥や魚が存在するかどうかを海図によって調べることは、まったく検証不可能なことからである。しかしながら、Pwukof には、同一の名称をもつ動物が相異なる2つないしそれ以上の島嶼でのべられている例がある。

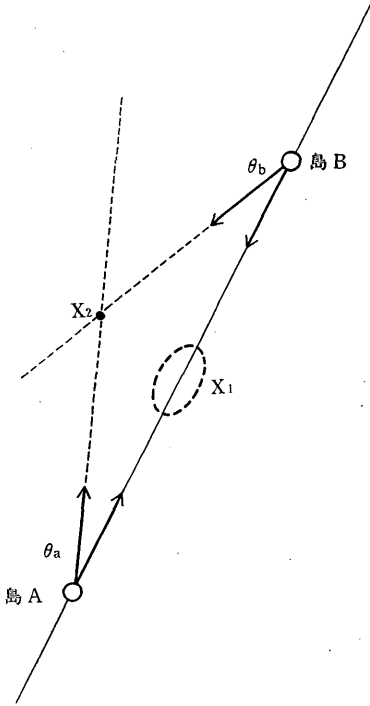


図1 異なった島嶼間における Pwukof の位置づけ

(θ は方位を, X は Pwukof にあらわれる生物をそれぞれあらわす)
 X_1 の場合, 場所は特定化されないが, X_2 の場合, Pwukof のあらわれる場所は特定化される。

すなわち, ある島 A からみて方位 (θ_a) に特定の生物 X があらわれるとし, 別の島 B から θ_b の方位に X があらわれるといった事例を Pwukof のなかにみいだすことができる。図1からもわかるように, θ_a と θ_b の絶対誤差 ($|\theta_a - \theta_b|$) が180度の場合, 島 A と島 B を結ぶ線上に X があらわれることになる。それ以外の場合は, Pwukof の生物 X はどこかの海域に固定されるか (θ_a と θ_b がそれぞれなす直線が交叉する), あるいは会うことがない (θ_a と θ_b がなす直線はまじわらない) かのいずれかである。

前者の例をあげてみよう。プルスク島から方位1 (コンパス方位では0度) には, Sówukerap というマグロ (事例20と22), ないし Sówukárhimw というカツオドリ (事例21), あるいはマグロ (事例23) が出現する。一方, プルワト環礁から方位17 (コンパス方位では180度) に, プルスク島, Sówukárhimw, Sówukerap があらわれる (事例25)。プルスク島とプルワト環礁はほぼ南北線にそって位置しているので, Sówukerap と Sówukárhimw がちょうど2つの島のあいだに位置している可能性は非常に高い(図2)。

つぎに, 後者の例をとりあげよう。サタワル島からみて方位10 (コンパス方位では

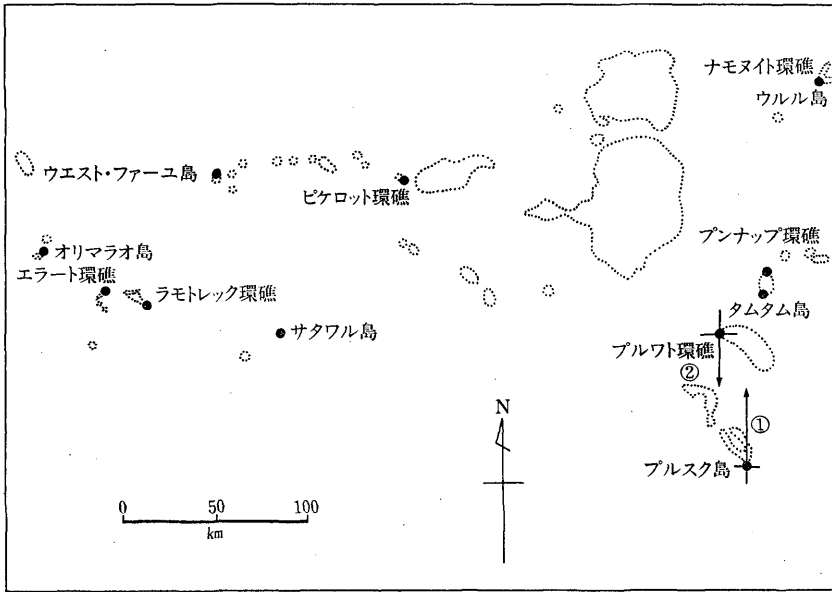


図2 島嶼間における Pwukof の比較

①と②は Sówukerap, Sówukárhimw の出現

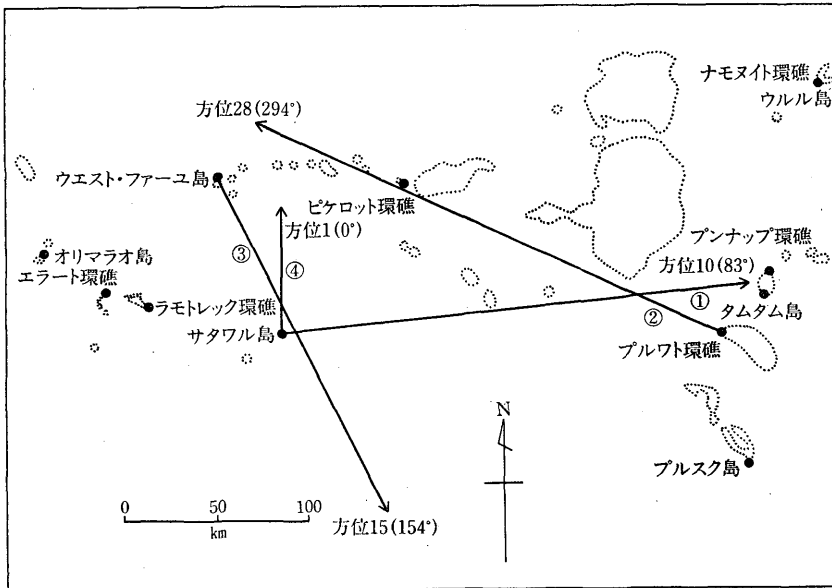


図3 島嶼間における Pwukof の比較

① Mwáramwárán kurukaak, ② Mwáramwár, ③と④ Yúniiso

83度)に **Mwáramwáran kurukaak** という名前の1羽のクロアジサシがあらわれる。一方、プルウト環礁からみて方位28(コンパス方位では294度)には、やはり **Mwáramwár** という名前の1羽のクロアジサシがあらわれる。名前に少し不一致があるものの、サタワルとプルウトとの間の海域にクロアジサシが固定される(事例15と事例25)(図3)。

事例10と11では、ウエスト・ファーフ島からみて方位15に **Yúniiso** というグンカンドリが出現する。サタワル島からは同じ名前のグンカンドリが方位1に出現する(事例12,14,15。事例13では、グンカンドリではなくカツオドリになっている)(図3)。

つぎに、2つの島の **Pwukof** が出会わない例をあげよう。ウォレアイ環礁から方位15に **Núkúnimmat** という1匹のサメが出現する(事例4)。一方、プルウト環礁から方位9位にもやはり **Núkúnimmat** という名前のカジキマグロが出現する(事例25)。プルウト環礁からみてウォレアイ環礁はほぼ真西にあり、2つの魚はあきらかには異なった存在と考えられる。

以上のように、出現する生物の方位関係を異なった島嶼間でしらべた結果、同一直線上にならぶ場合、ある特定の海域に点として固定される場合、2つのものを別個のものと考えざるをえない、という3つにわけることができる。

第1の場合、**Pwukof** の知識は **Woofanúw** の場合と同じく、方位はきまるが距離は規定されない知識であるということを示す。第2は、鳥や魚が特定の場所に存在する場合である。第3の場合、2つの島の **Pwukof** のうち、どちらかの島の情報自体がまちがっているか、同一の名称でよばれる **Pwukof** が、ちがった海域に別々に存在すると推定することができる。このうち、海図上で作図した結果、最も多く見られたのが **Pwukof** が固定される第2の場合であった。しかし、そのことは **Pwukof** の生物が一定の海域にいることの積極的な証明になるのではけっしてない。もっとも、島ごとに見、バラバラな知識とおもわれた **Pwukof** が部分的にせよ整合性をもつことがあきらかになった。それでは、特定の場所に魚や鳥がいるという帰結をとりあげるなら、そのことは一体なにを積極的に意味しているのであろうか。この問題は、以下の討論においてとりあげることにしよう。

Ⅲ. 討論と結論

1. **Pwukof** のフォーク・インタプリテーション

これまでみてきたように、**Pwukof** にはさまざまな海の生物が登場する。常識的に

考えれば、魚や鳥が1カ所にとどまっているなどありえない。しかもいくらきまった針路にカヌーをすすめたとしても、特定の色や形態をもった鳥や魚にはたして出会うといったことがありうるのであろうか。Pwukofでのべられた生物が架空のものであるのか、あるいは実在のものであるのかという点をめぐって、筆者はインフォーマントと話しあったことがある。そうした討論を通じて、サタワル島の航海者たちがPwukofに登場する生物がどのような性質のものであると考えているのかといった点について、以下のような説明をうることができた。

(1) serfi (遭遇と偶然性)

ある島を出発して外洋を航海するさい、Pwukofの知識でのべられているような特定の海洋現象や魚、鳥に出会うこと自体は、serfiとよばれる。このことばには、「遭遇する」とか、「たまたま会う」といった訳語がもっともよくあてはまる。すなわち航海者たちは、Pwukofの知識でかたられる魚や鳥にかならずしも出会うとはかぎらない、ということをはっきりとみとめていることになる。

Pwukofの知識をインフォーマントから教わっていたさい、ときどき、エピソード的に島の何某はかつてこの魚に実際、出会ったことがあるとか、自分自身、嵐に遭遇して方向がわからなくなったさい、Pwukofに登場する魚に「遭遇し」たので、その時点でカヌーの現在地を知ることができ、結局、無事に島にもどることができたという話を聞いた。こうしたことから、Pwukofの生物が実在し、それらについての知識をもっていることが航海にとって非常に重要であると考えられていることがわかる。

(2) ye suwen sefan (再生産の論理)

もし、ある航海者がたまたま出会ったPwukofの魚を釣ったり、カヌーに近づいてきたPwukofの鳥を捕獲したりすると、その生物はもうその場所にはいなくなるではないか、とすこし意地悪い質問をした。するとそれにたいして、魚や鳥が何らかのきっかけでいなくなっても、また、別の個体がいれかわるという返答をえた。つまり、Pwukofでのべられている生物現象にたいしては、ye suwen sefanという表現がなされた。suwenというのは「置換する」、sefanは「ふたたび」という意味であり、Pwukofの生物は何度も再生すると見なされていることになる。生物は生命をもつものであるから、うまれてからある時間がたつとかならず死ぬ。Pwukofの生物といえども生き物である以上、死はさけられない。こうした論理からすれば、Pwukofの知識が代々、継承されてゆくことと矛盾することになる。しかしながら、置換、ないし再生産という別の論理によってこの問題が見事に克服されているわけである。

じっさい、一度死んだ動物が再びあらわれた、という話をきくことができた。たとえば、あるインフォーマントによると、ウルル島の Pwukof に出現する Sorom というサメ (niréré という種類) は、かつてプルワト環礁の人によって殺されたが、ふたたびまた出現した (事例27)。

(3) 鳥と魚についての民俗知識

Pwukof の知識に登場するさまざまな生物のうち、とくに魚や鳥にたいして、以下にのべるようないくつかの民俗概念や考えかたがあることがわかった。

a. 動物カテゴリー

あるインフォーマントによると、Pwukof のなかで言及されている生物は、海の動物 yeparh と空を飛ぶ動物 manure に区分できるという。yeparh は、「泳ぐ動物」をあらわす manni yinin, あるいは「海の動物」をあらわす manni neeset の一部であり、manni neeset のなかには、魚、イルカ、クジラなどがふくまれる。一方、「空を飛ぶ動物」をあらわす manure は manni yáneyán の一部であり、manni yáneyán のなかには鳥、トンボ、チョウなどがふくまれる。yinin は「泳ぐ」、neeset は「海で」、yáneyán は「飛ぶ」という意味をそれぞれあらわす¹⁾。

別のインフォーマントは、航海術を修得した panuw にとり、Pwukof でのべられた鳥や魚は航海の重要な目安となるものであると前置きして、つぎのような二つの概念をあげた。それは、manni panuw と yikiwe nayurh panuw である。前者は「panuw の maan」の意味で、この maan には、鳥、チョウ、トンボなどの飛ぶ動物がふくまれる。一方、後者は「panuw の子供である yiik」という意味で、yiik には海の魚やクジラ、イルカなどがふくまれる。

さらに別のインフォーマントによると、Pwukof がある島からみてあらゆる方位に出現するものの総称であり、manure はそのうち実際の航海において遭遇するものをさすという。

b. 距離による分類

a. の場合は、動物の行動様式に着目した分類の諸相であり、空中と水中という2つの区分が重要であった。これとはまったくちがって、島からの距離におうじた動物の

1) 筆者はサタワル島における民俗分類に関する論考のなかで、maan という概念が非常に重要であるということをかたがて指摘したことがある [秋道 1981c]。ちなみに上記の例で、manni yinin あるいは manni neeset と manni yáneyán はいずれも動物の総称である maan という概念を動物の運動様式や棲息地によって区分したいわゆる横断的なカテゴリーである [ANDERSON 1972]。これ以外に、manni téété, すなわち「這う動物」というカテゴリーがあり、トカゲ、ブタ、タコ、乳幼児などがふくまれる [秋道 1981c]。

民俗分類がなされていることがわかった。

あるインフォーマントによると、Pwukof のなかでのべられている生物は、一般に yeparh と称される。ただし、この yeparh が出現する場所、すなわち島からの距離に応じて2つないし3つに区分され、それぞれ異なった名称があたえられている。すなわち、manure は島のちかくに出現する生物であり、これにたいして yeparh は、島から 20-40 km の距離はなれた海域に出現する生物である。そして、その中間の海域は、nepetan manure me yeparh とよばれ、ちょうど manure が出現したところから 10 km くらい沖にいったところに相当するという。manure の man- は動物一般をあらわす maan を、-re は rerhi、すなわち「達する」という意味をあらわすという。この考えかたでは、特定の生物カテゴリーが島からの距離との対応で区別されている点が重要である。

c. 方言の差

別のインフォーマントによると、yeparh と manure はともに maan (=鳥) と yiik (=魚) をあわせたものをあらわし、manure が東部のことばであるのにたいして、yeparh は西部のことばであるという。一般の魚名においても、西部のことばと東部のことばの両方が島で通用することがある [AKIMICHI and SAUCHOMAL 1982]。yeparh と manure の場合も、同様なちがいにすぎないというのがこの考え方である。ただし、プルワト環礁でも yeparh ということばが知られており、航海における計測、予測という意味がある [ELBERT 1972: 27]²⁾。

以上のようにサタワル島の航海者による Pwukof の説明原理をみても、Pwukof に登場する生物現象は、架空の存在であるとされているのではなく、実際に会うことは少ないが、つねに置換し、再生産される結果、恒常的に存在すると考えられていることがわかる。しかも、Pwukof の生物は、具体的な航海のさいに何の目安や指標ともならないのではない。島からの距離に応じて出現する生物にたいして異なった名称があたえられており、このことから推察することができるように、Pwukof の生物は実際の航海において航海者が遭遇するものと考えられているのである。

2. Pwukof の知識の性格をめぐって

(1) カリキュラム的な知識

Pwukof は、カロリン諸島における航海術のなかで、たいへん重要な項目であるこ

2) カロリン諸島では、東西数千キロにわたって島じまが分布しており、しかも各島のあいだではおなじカロリン語がもちいられる。ただし、音韻上の分布はそのなかで異なっており、とくにサタワル島周辺でそれより東側と西側との境界になっている [QUACHENBUSH 1968]。

とはすでに序論でのべたとおりである。実用性という点からみると、Pwukof は一定の有効性をもつとはいえ、具体的な島嶼間関係に関する知識である Woofanúw にくらべて、実際的に利用できる知識でないことはあきらかである。しかし、この知識がなぜ基本的な部類にはいるとされているのであろうか。

もし、Pwukof に叙述された内容が実際の航海でまったく役に立たないものであり、特定の個人にのみ秘匿されたものであるなら、わざわざ若者たちに基本的な知識として修得を義務づける必然性はないようにおもわれる。

Pwukof にふくまれる情報は、かつて紙や鉛筆がなかった時代にはまったく個人的な記憶として暗記されていたものであろう。筆者が調査したさい、一部のインフォーマントをのぞいて、すべての人はノートや紙きれに Pwukof の内容をしたため、私が先生からその内容を聞き取るといったあんばいで調査がおこなわれたのである。

かつて若者が航海術のさまざまな知識や情報を修得するさいに、ppwo とよばれる儀礼がおこなわれたことはよく知られている。そのさい、若者は熟練した航海者から質問をうけ、それに正確に返答できないと周囲の人びとから笑いものにされることがあったという。すなわち、どれだけ実際の航海に役立つかどうかは別として、こうした知識をしっていることが教養としても要求される。そのための学習教科にすぎないとする考えかたが1つには成立するのではないだろうか。

(2) 言語表現を通じたオリエンテーション法

Pwukof は、島ごとに特異的な言語情報を網羅した知識でもあった。特定方位に特定の固有名称をもち、しかもそれがたとえばグンカンドリであったり、1頭のクジラであったりする。このような生物の名称、性格（色、形態、行動）、あるいは出現方位をしらべてみると、2つのものがたがいに対を形成したり、類似しているが対立した性格をもっている場合がある。

いくつかの例をあげよう。サタワル島の Pwukof には、同一の方位に色のちがうグンカンドリが出現する例 (Nówuwenimóng と Yonipwuk) がある。また、べつの例では、たがいにとなりあった方位に一方が鳴いているのにたいして、他方が鳴いていないという特徴をもつコアジサシが出現する。しかも、その名称である Mesórumeyéér と Mesórumeyefáng は、北 (yefáng) と南 (yéér) という方位上の対立要素をふくんでいる。

ウルル島の Pwukof では、方位12に出現する Firisát という固有名の鳥と方位31における Pirheyefórh という名前の鳥は、その出現する方位からいうと円周上では中心をはさんで一直線上にならんでいる。しかも、一方は1本脚で、もう一方は2本脚で

流木のうえにとまっているという特徴をもつ。なお、Pirheyefórh という名称自体は、「1本脚の」という意味をあらわす。

同じくウルル島には、方位32と方位2に Resapwekiyaw と Rápwekiyaw という名前をもつ鳥がそれぞれ1羽ずつおり、一方は鳴いているが他方は鳴いていない、という例がある。この場合、南北線をはさんで、こぐま座のベータの出現（方位2）と没入（方位32）に異なった特徴（鳴いている—鳴いていない）をもつ鳥が対を形成している。

プルスク島の Pwukof においても、南十字座の没入方位に Yúnúmwárútiw という全長3メートルくらいのカマスが頭を下にむけており、一方、南十字座の出現方位には Yúnúmwárútá というカマスが頭を上に向けている。この場合、南十字座の出現・没入という方位関係と、カマスの水中における状態（頭が上か下か）、そしてその名称自体が対（接尾辞の -tiw と -tá）になっている。また、この例では、東が上、西が下というカロリン諸島地域に特有の方位観念がしめされている【秋道 1980】。また、ある方位に2匹の鳥が出現し、一方が鳴き、他方が鳴いていないとか、事例14にあるように2頭のオスのクジラ (Napwichenúk) と1匹のメスのサメ (Pwicheinúk) が同じ方位にあらわれるといった例もある。

以上述べたように、Pwukof のなかの生物が対を形成する例はいくつかある。しかし現実的に対をなした生物が存在するとは考えにくい。むしろ、神話や説話などの口頭伝承において常套手段としてもちいられる対表現と見なしたほうが納得しやすい。Pwukof の知識が、記憶するためのものであるという性格がこうした例にしめされている。しかしながら、名前や行動、形態の特徴などが対をなすのは、全部で10数例しかない。すなわち、Pwukof の内容を記憶するさいに、対立概念をもちいた表現が部分的に採用されていると考えてよいだろう。もっとも、Pwukof が有用性を無視したことばのあそびに終始した内容のものでないこともあきらめよう。

(3) 民俗知識とその実用性の問題

そこで、Pwukof の知識の根幹にふれる問題として議論しなければならないのは、航海のさいに実際に会おう鳥や魚が、航海者にとってどの程度重要な目安となるのかという点である。

航海のさい、鳥や魚の観察から、目的とする島の方位や位置を推測するという内容の知識が知られている。それらは、Pwukof や Woofanúw のように体系だったものというよりも個別的な情報としての性格が強い。以下、それらを列挙しよう。

島の周囲には、島に帰巢する鳥や島の周囲にあるサンゴ礁にいる魚を食べる大型魚

がいる。こうした鳥や魚は、それぞれ *maan fanúw* (島の鳥), *manniworh* (リーフの動物) とよばれる。

島から離れると、外洋に棲息する鳥や魚がいる。こうした動物は、それぞれ *manni neemetaw* (外洋の鳥), *yikán neemetaw* (外洋の魚) とよばれる。島に近づくと、サワラ (*ngáán*), ツムブリ (*fofo*), カマス (*seraw*) などの魚があらわれる。マグロ (*tókuw*), カツオ (*yárengaap*), シイラ (*sepór*) などはどこにでもいるので、島が接近したかどうかをしる目安とはならない。

トビウオのなかで、*soowurhen mengarhr*, *paimwarh* という種類は、島の周囲のサンゴ礁のちかくにしかいない。そのほかのトビウオは外洋にいる。前者は総称して *mengarhun woorh* (リーフのトビウオ), 後者は *mengarhun neemetaw* (外洋のトビウオ) とそれぞれよばれる。

海鳥は昼間、外洋で索餌し (*yápwiniwin*), 夕方、帰巢のため島のほうへ飛んでゆく (*yákutta fanuw*)。

niserhupwun, *mangomwit*, *pwurhusat*, *sepan* という名前の鳥は外洋性で、波のうで休眠する。つねに外洋にいるので、これらの鳥を *manni neemetaw* (「外洋の鳥」) という。波風が荒くとも、飛び回ることができるのでこれらの鳥の翼はかたいと考えられている (*pay maaw*)。ただこうした鳥の多くは、マリアナ諸島で見られ、中央カロリン諸島におけるような低い島はきらい。鳥を見つけて、そのあとにしたがい島を見つけることを *yóni fanuw* という。*yó-*とは、「したがう、あとについてゆく」という意味である。しかし、鳥によってはかならず島にたどりつけるものや、あまりあてにならないものがある。

kiyakiy (シロアジサシ) は、もっとも信頼度が高い鳥とされている。この鳥が高く飛んでいると島までまだ遠く、低く飛んでいると島がちかづいたと考えられる。一日の内での移動距離がほかの鳥にくらべてもっとも長く、しかもまっすぐ島から飛んでくる (*yerai manuwe yekin yowen*)。したがって、朝か夕方この鳥を見ると、島のある方向を知ることができる。この鳥は島と島との中間の部分 (*neepwon*) までとんでくることがある。*pwon* は、「空の」という意味を表わす。

kurukaak (クロアジサシ) のうち、大きいものを *reerhnáp*, 小さいものを *reerh* という。*kurukaak* は、*nayur yanú* すなわち「超自然的存在の子供」と見なされている。

neepwon にいる鳥は、それぞれの島にもどるべく、わかれて飛んで行く (*yaa yiyakno maan*)。サタワル島にもどる鳥は、*yase faninong manni Sátáwal*, ウエ

スト・フェーユ島にもどる鳥は、*yáse faniwow manni Pikené* という表現をする。

これにたいして、*yómó, yaraar, mwnikaw, nisigér, yappaimaw, súúk, yasaf* などの鳥はたとえある方向に飛んでいったとしても、それがただちに島のある方角をしめすわけではなく、目安とはならない。たとえば、ある方向に飛んで行ってまたもどってきたり、流木のうえで休眠することもある。結果として、航海者たちがこれらの鳥にだまされることがあり、そういった意味で以上の鳥を、*maan faisopw* すなわち、「だます鳥」とよぶこともある。ところが、*Pwukof* では、グンカンドリ、ネッタイチョウ、カツオドリらは、シロアジサシ、クロアジサシよりも多く出現する³⁾。

以上みたように、鳥や魚とその習性に関して人びとは一定の知識を有しており、それをたくみに応用して、航海中における島の発見の目安としていることがわかる。鳥や魚の種類に応じて、島を発見するうえでの重要度はまったく異なっており、とくに信頼度の高いものと人間がだまされる鳥とが区別されていることは非常に興味深い。

3. 海洋生物と海の図像学——結論にかえて——

子供が海の絵を描くとき、まず青い絵の具を白い画用紙一面に塗ったところに魚やタコ、あるいは海藻の絵をかきこむことがある。魚やタコ、海藻は海にふさわしい存在であり、青色だけの面がもっとも海らしくなる。さらに、海面上に鳥を数匹描いてやるとさらに現実感が増す。こうした図像学的な世界がじつは *Pwukof* のなかに認められる。

第IV章であげたようなさまざまな特徴をもつ魚や鳥が、実際に海面上に登場するさまを思い浮かべてみよう。日頃からなれ親しんだ鳥や魚だけでなく、見たこともないような異常な形をしたもの、現実ばなれした色のもの、外洋にいるはずのないチョウチョウオやヒメジも登場する。その図像が、特定の名称を持っており、あらわれる方位もきまっている。異常な形をしたものは、人間にそれだけ強烈なイメージをあたえるし、記憶しやすいだろう。黄色い色のサメは、この世のなかに存在しないと考えるのがふつうだ。ところが、そうしたサメがある島から特定の方向に航海をおこなったさいに存在するというのが *Pwukof* である。こうした知識によってイメージが喚起される。その結果、*Pwukof* の情報を通じて、広大な外洋海域は何の目印や標識もない単調な世界であるのではなく、航海者にとり現実的で特定化されたものになる。

3) 島からの距離によって出現する鳥の種類が異なることは、これまでに報告がある。ミクロネシアの事例をまとめた Lewis によると、カロリン諸島では、クロアジサシとシロアジサシは島から20マイルくらいのところで、カツオドリは30マイルくらいのところで、アカアシカツオドリは40から50マイルくらいのところで、さらにグンカンドリは75マイルくらいのところで見ることができるといふ [Lewis 1975]。

つまり Pwukof の生物を島のまわりに想定することにより、海はあらゆる生物たちに出会う世界として再構成されるのではないだろうか。

かつて筆者がとりあげた Pwuupwunapanap という知識は、巨大なダイヤモンド形をしたモンガラカワハギが海面上にあり、その頭、尾、背びれ、腹びれ、体の中心部にそれぞれ実在の島や架空の存在が位置するという内容のものであった。Pwukof においても実際に存在するもの、鳥や魚たちの生き生きとした描写がそのことを物語っているように、ひょっとして実在するかもしれないと考えられるもの、議論の余地なく架空の存在と思われるもの、実在するとも架空のものとも判断のつかないもの、といったように、異なった受けとめ方が可能なくつかの現象が混在している。すなわち、Pwukof では、実在と架空のあいだが連続的に変化し、しかもそれが1つの知識として位置づけられている。Pwukof によって表現されるのは、カロリン諸島の属する海域における海の生物たちや島、サンゴ礁などについての図像学な世界にほかならず、航海者たちにとっては、壮大な海のイメージ・マップになっているとはいえないだろうか。

謝 辞

本研究のもとになった野外調査は、昭和54年度文部省科学研究費補助金（現地調査）「中央カロリン諸島における伝統的航海術の民族学的調査」（代表者：石森秀三）の交付をうけておこなったものである。共同研究者の石森秀三、須藤健一両氏（ともに国立民族学博物館）には調査を通じて、多大な協力と励ましをいただいた。本研究は、国立民族学博物館共同研究「中央カロリン諸島における伝統的航海術の民族学的研究」（昭和55年度 代表石森秀三）において口頭発表（昭和55年5月3日）し、班員である茂在寅男氏（東海大学）、松木哲氏（神戸商船大学）、杉藤重信氏（甲南大学）より貴重なご助言をいただいた。さらに、本報告の一部は、同館共同研究「象徴・分類・認識の民族学的研究」（昭和60年度、代表松原正毅）の共同研究会で口頭発表したものである（昭和60年11月1日）。発表にさいして、班員各位より数々の貴重なコメントをいただいた。感謝の意をあらわしたい。最後に、Pwukof の知識を御教示いただいたサタワル島のルッパンガナップ氏、エウィヨン氏、イキレップ氏、マグル氏、エペマイ氏、さらに、調査助手をつとめ本稿の見直しをしていただいたシャピーノ・サウローマン氏に厚く感謝の意を表する次第である。

Ⅳ. 付録—Pwukofの資料

Pwukof に関する知識を、島ごと、インフォーマントごとに記載する。それぞれの事例には1～36の事例番号をつけ、えられた資料にふくまれる島を便宜上、地理的にもっとも西に位置するものから東のほうへと順番に配列した。各事例の見出しにある

イニシャルはインフォーマントをしめす。

なお、記載事項のもっとも左の欄にしめされた番号は、スター・コンパスにおける方位番号であり、1から32までの数字でしめされている。具体的な方位とその名称については、附表1にしめしておいた。つぎにその番号であらわされる方位上に出現するとされる現象、あるいは事象の名称をのべ、コロンははさんでその実態をそれぞれサタワル語名でしめす。不明、あるいは名称がない場合、その旨をしるした。さらに、スラッシュ記号をはさんで実態の日本語訳をしめした。実在する島には*印をつけ、直接スラッシュをはさんで島名をしめした。さらに、1つの方位に複数の現象があらわれる場合は、句点をはさんで順番に記載した。括弧内には、それぞれの実態にかかわる付加的情報として、インフォーマントよりえられた内容を記述した。実態に関して、適切な日本語訳、あるいは種類が不明の場合はとくにその旨をのべず、たとえば、魚とか鳥として記述した。出現する動植物のサタワル語名と和名、および英語名との対応は第II章のなかの表2としてまとめてとりあげた。

事例1 ソロール環礁のプロコフ (Pwukofiy Seróón) Ik

- | | |
|--|-----------------------|
| 3 Fáis*/フェイス島 | 11 Weneyá*/ウォレアイ環礁 |
| 6 Tinifamar: ruwow yasaf/2羽のゲンカ
ンドリ (1羽はじっとしており、もう1
羽のゲンカンドリがそのまわりを飛びま
わっている: yáng tókunukunuw) | 14 Yóórupik*/ヨールピック環礁 |
| 7 Wenima: yeew fáariyap/1匹のエイ | 19 Songorhón*/ソソソロール島 |
| 9 Yewaimwarh: yeew fáariyap/1匹のエ
イ | 25 Pwanaw*/パラオ諸島 |
| | 27 Ngénúw*/ヌゲール環礁 |
| | 28 Yaap*/ヤップ諸島 |
| | 31 Yúnútiw*/ウルシー環礁 |

事例2 ヨールピック環礁のプロコフ (Pwukofin Yóórupik) Mg

- | | |
|--|--|
| 1 Takunumwar: yeew ngáán/1匹のサワ
ラ, Fayunkemópw: woorh/サンゴ礁 | 11 Yápinipów: yeew yasaf/1羽のゲンカ
ンドリ |
| 2 Núkúnúwaneniman: yeew fáariyap/1
匹のエイ | 13 なし: yefórh yápeyipey me ruwow yinin
/流木と2羽の鳥 (流木の両端に1羽ず
つのっている) |
| 3 なし: yewumw kúúw/イルカの群れ, な
し: ruwow sángir/2匹のマグロ | 14 なし: yeew súúk/1羽のネッタイチョウ |
| 4 Ferhainap*/フェララップ環礁 | 15 Worháitinipwu: woorh/サンゴ礁 |
| 5 Weneyá*/ウォレアイ環礁 | 16 Yenangarhik: woorh/サンゴ礁, |
| 6 Yifénúk*/イファルク環礁, Pikené/ウ
エスト・ファーユ島 | Náiyón: yeew yeré/1羽のエロ鳥 (褐
色) |
| 7 Yenóót*/エラート環礁 | 17 Yúrúyón: yúúr/エビ (数は不明) |
| 9 Sowuk*/プルスク島 | 18 Yenanganap: woorh/サンゴ礁, |

- | | |
|---|--|
| Nawienimwár: woorh/サンゴ礁 (サメの群れがいる) | 25 Pwanaw*/パラオ諸島 |
| 19 Worháináipwéw: woorh/サンゴ礁 | 27 Ngénúw*/ヌゲール環礁 |
| 20 Worhánikiiy: woorh/サンゴ礁 (ヘレン礁か?) | 28 Yaap*/ヤップ諸島 |
| 21 Worhorang: woorh/サンゴ礁, Katokopwei*/トビ島 | 30 Seróón*/ソロール島, Yúnútiw/ウルシー環礁 |
| 22 Songorhón*/ソンソロール島 | 31 Yifúrang: yeew fáariyap/1匹のエイ (色は黄色), Fáis*/フェイス島 |
| 23 Fainak: yómó/カツオドリ (5, 6羽いるとされる) | 32 Núkúnúwaneniman: ruwow fáariyap/2匹のエイ |

事例3 ヨールピック環礁のプロコフ (Pwukofin Yóórupik) Ik

- | | |
|---|--|
| 2 Worháirorh: woorh/サンゴ礁 | シの木がはえている) |
| 3 Sównúk: ruwow woomey/2匹のヒメジ (頭は táán máyina [＝東] の方向をむいている) | 19 Fanúwáicchen: fanúw/砂地の島 (クサトベラが生育している) |
| 4 Ferhainap*/フェララップ環礁 | 20 Worhánikiiy: woorh/サンゴ礁 (大きなサンゴ礁で, Ppwun [プロアンナ島] と Merier [メリル島] との間にあるヘレン礁か?) |
| 5 Wenyá*/ウォレアイ環礁 | 21 Nimwáremwár: yeew fáariyap/1匹のエイ (首のまわりに白い飾りがある) |
| 6 Yifénúk*/イファルク環礁 | 22 Songorhón*/ソンソロール島 |
| 7 Yenóót*/エラート環礁 | 28 Pwanaw*/パラオ諸島 |
| 9 Sowuk*/ブルスク島 | 30 Yúnútiw*/ウルシー環礁 |
| 13 不明: yefórh yápeyipey/1本の流木 | 31 Fáis*/フェイス島 |
| 14 Worháitinipwu: woorh/サンゴ礁 | 32 Wenima: yeew fáariyap/1匹のエイ |
| 17 Worháñifena: woorh/サンゴ礁 (サヨリがいる) | |
| 18 Fanúwainú: fanúw/島 (1本のココヤ | |

事例4 ウォレアイ環礁のプロコフ (Pwukofin Wenyá) Mg

- | | |
|---|---|
| 1 Payúrowa: yeew cchon púngúpáánei/鳥の群れ | 14 Fasuméyúr: woorh/サンゴ礁 |
| 2 Worhorang: woorh/サンゴ礁 | 15 Núkúnimmat: yeew pááw/1匹のサメ, 不明: yeew wumwuné/1匹のアイゴ |
| 3 Ferhainap*/フェララップ環礁 | 16 Náiyón: yeew yeré/1羽のエロ鳥 (色は黄色) |
| 4 Faiyew*/ガフェルト島 | 17 Yanúrang: yeew súúk/1羽のネッタイチョウ (色は黄色) |
| 5 Rhimwenwenipwúkúw: woorh/サンゴ礁 | 18 Nawimwai: yeew pwáá/魚の群れ (多分, ツムブリ) |
| 6 Taimeyáng: 不明 | 19 Nawienimwar: yeew pwáá/魚の群れ (多分, サメ) |
| 7 Wenimerów*/オリマラオ環礁 | 20 Worháitinipwu: woorh/サンゴ礁 (ウミガメを捕獲するところ) |
| 9 Yenóót*/エラート環礁 | |
| 11 Yifénúk*/イファルク環礁 | |
| 12 Worháitakúnúmwár: woorh/サンゴ礁 | |
| 13 Mmerhón: woorh/サンゴ礁 | |

- | | |
|---|---|
| 21 Yóórupik*/ヨールピック環礁 | 28 Yúnútiw*/ウルシー環礁 |
| 22 Náikerúk: yeew raaw/1頭のクジラ
(非常に大きなクジラで、背びれの部分がない) | 29 Fáis*/フェイス島 |
| 23 Fayúnkemópw: woorh/サンゴ礁 | 30 Yikesú: yeew seraw/1匹のカマス |
| 25 Faittowyang: woorh/サンゴ礁 | 31 Wurúwa: yeew súúk/1羽のネッタイ
チョウ (小さい) |
| 27 Seróón*/ソロール環礁 | 32 Worhonang: woorh/サンゴ礁 |

事例5 イファルク環礁のプロフ (Pwukofin Yifénúk) Ik

- | | |
|-------------------------------------|------------------------------|
| 1 Ferhainap*/ファララップ環礁 | 17 Worhánfamók: woorh/サンゴ礁 |
| 2 不明: woorh/サンゴ礁 | 18 不明: yeew pwóópw/1匹のサメ |
| 3 Faiyew*/ガフェルト島 | 19 Fainiwanisok: woorh/サンゴ礁 |
| 4 Rhimwenwenipwúkúw: woorh/サンゴ
礁 | 20 不明: yeew raaw/1頭のクジラ |
| 5 Faas: woorh/サンゴ礁 | 21 Mmerhón: woorh/サンゴ礁 |
| 6 Wenimerów*/オリマラオ環礁 | 22 Yóórupik*/ヨールピック環礁 |
| 7 Yenóót*/エラート環礁 | 27 Wenyeyá*/ウォレアイ環礁 |
| 9 Mesáineyanú: tówur/水道 | 29 不明: pwurupwur/海の泡 |
| | 32 不明: wanuw nikirhowur/8羽の鳥 |

事例6 イファルク環礁のプロフ (Pwukofin Yifénúk) Mg

- | | |
|--|---|
| 1 なし: yeew súúk/1羽のネッタイ
チョウ (小さい) | /8頭のクジラ |
| 2 なし: yeew súúk/1羽のネッタイ
チョウ (大きい) | 14 Nemayúrúnúk: yeew nicchok/1羽の鳥 |
| 3 Taimeyáng: yewumw kúúw/イルカの
群れ (2頭だけ跳躍している) | 15 Péénap: pwurupwur/海の泡 |
| 4 Yikiwot: yewumw kúúw/イルカの群れ
(すべて跳躍している) | 16 Yápinong Yifénúk: ruwow sángir/2
匹のマグロ (跳躍している) |
| 5 Faas: woorh/サンゴ礁 (非常に波があ
らい) | 18 Fainiwanisok: woorh/サンゴ礁 |
| 6 Yómóčchan: yeew yómó/1羽のカツオ
ドリ | 19 不明: yeew raaw/1頭のクジラ (体は
垂直で頭を上に向けている) |
| 7 なし: yeew súúk/1羽のネッタイ
チョウ, なし: yeew yasaf/1羽のゲンカン
ドリ | 21 Mmerhón: woorh/サンゴ礁 |
| 9 Manikoi: yeew pwáá/鳥の群れ (大き
なシロアジサシとクロアジサシの群れ) | 22 Yóórupik*/ヨールピック環礁 |
| 11 Faspéiyén: woorh/サンゴ礁 | 23 不明: yeew kuniing/1羽の鳥 |
| 12 Piyan: yeew pááw/1匹のサメ (外鰓
孔の部分は赤い色をしている) | 25 不明: yeew takúnaar/1匹のカジキマ
グロ |
| 13 Yúwéyúwén yápinimaat: wanuw raaw | 28 不明: faaw kúúw/4頭のイルカ |
| | 29 Péénap: pwurupwur/海の泡 |
| | 30 Yúnúisowumók: yeew pááw/1匹のサ
メ (胸びれと尾の部分にココヤシの若葉
を巻いている) |
| | 31 なし: faaw masos/4頭の小さクジラ
い |
| | 32 Yápinipaonuwenyeyá: wanuw nikirho-
wur/8羽の鳥 |

事例7 ガフェルト島のプロコフ (Pwukofin Faiyew) Mg

- | | |
|---|--|
| 1 Nanúkúnfas: yeew yasaf / 1羽のゲンカ
ンドリ (大きくて腹が白い) | 20 Wurupiy: yeew pááw / 1匹のサメ,
Weneyá* / ウォレアイ環礁 |
| 2 Nuuta* / ロタ島 | 21 Yóórupik* / ヨールピック環礁 |
| 3 Chiniyón* / テニアン島 | 22 Ferhainap* / ファララップ環礁 |
| 4 Sáipén* / サイパン島 | 23 Seróón* / ソロール環礁 |
| 5 Tipipi: fanúw / 島 (位置不明) | 25 Fáis* / ファイス島 |
| 6 Tipap: fanúw / 島 (位置不明) | 27 Nówurireng: yeew yasaf / 1羽のゲン
カンドリ, Kafuruurh: fanúw / 島 (超
自然霊のすむ島とされ, このカミが怒る
と, 島の姿がきえるとされている) |
| 11 Piik* / ビケロット環礁 | 28 Napwinitow: yeew nipwoipwok / 1匹
のチョウ (色は黄色) |
| 12 Yayútáinemetaw: woorh / サンゴ礁 | 29 Narhúkunipwerh: 不明 |
| 13 Pikené* / ウエスト・ファーフ島 | 30 Yowureng: yewumw sepan / 鳥の群れ |
| 14 Sátáwal* / サタワル島 | 31 Yikowumwunek: (数不明) wumwuné /
アイゴ |
| 15 Nómwéchok* / ラモトレック環礁 | 32 Repwas: yeew raaw / 1頭のクジラ (大
きなクジラで, 背中部分腐っている。
他の魚がやってきて, その部分にわいた
ウジを食べている) |
| 16 Panurh: yeew yasaf / 1羽のゲンカ
ンドリ (のどの部分が赤い色をしている) | |
| 17 Worhánikayúsómw: woorh / サンゴ礁,
Wenimerów* / オリマラオ環礁 | |
| 18 Senayison: yeew yasaf / 1羽のゲンカ
ンドリ, Faas: woorh / サンゴ礁 | |
| 19 Ruweirhe: (数不明の) takúnaar / カジ
キマグロ, Yifénúk* / イファルク環礁 | |

事例8 エラート環礁のプロコフ (Pwukofin Yenóót) Mg

- | | |
|---|--|
| 1 Merenifas: yeew takúnaar / 1匹のカジ
キマグロ | カンドリ |
| 4 Yikefirhmwar: yeew sáyúwaanú / 1匹
のウミヘビ | 25 Nemwaiyón: ruwow nimwéy / 2匹の小
さなサメ |
| 5 Pikené* / ウエスト・ファーフ島 | 27 なし: yewumw kúúw / イルカの群れ |
| 17 Nemayúrúnúk: yeew sepan / 1羽の鳥 | 28 Rappowunón: mesaisáát / 波の状態 (非
常に荒い) |
| 18 なし: pwái sepan / 鳥の群れ (鳴いている) | 29 Wenimerów* / オリマラオ環礁 |
| 19 なし: yefórh yápeyipey / 流木 (人間が
乗っているようにみえる。流木自体の名
称は, wei yanú, すなわち「超自然霊に
似た」という意味である) | 30 Wuwarúmetaw: woorh / サンゴ礁 (オリ
マラオ環礁の近くにあり, 底釣り漁によ
い) |
| 20 Mesáineyanú: tówur / 水道 | 31 Tikinimaan: ruwow yaraar / 2羽の鳥
(1羽は鳴いているが, 他方は鳴いてい
ない) |
| 21 なし: yeew yasaf / 1羽のゲンカ
ンドリ (腹が黒い) | 32 Náikiyón: ruwow wumwuné / 2匹のア
イゴ |
| 22 Rappowuyas: yeew yasaf / 1羽のゲン | |

事例9 ラモトレック環礁のプロコフ (Pwukofin Nómwéchok) Mg

- | | |
|---|---|
| 1 Sókupwumeyefáng: yeew reerh / 1羽の
小さなゲンカンドリ (尾が長い) | 2 Nacchenifés: yeew yasaf / 1羽のゲンカ
ンドリ |
|---|---|

- 3 Nimmer: yeew sángir / 1匹のマグロ
(尾を水面からだして跳ねている)
- 4 Maanirek: yeew sángir / 1匹のマグロ
(跳躍している)
- 5 Sówupúngúwa: yeew fáariyap / 1匹の
エイ
- 6 Yikonup: yeew fayi / 1匹のエイ
- 7 Náikirerh: yeew pááw / 1匹のサメ (小
さい)
- 13 Náikimwán: faaw cchep / 4匹のヒラア
ジ (黄色)
- 14 Fákenás: ruwow yaraar / 2匹の鳥
- 15 Náikániyamw: yenuw raaw / 3頭のク
ジラ
- 16 Náfitimwai: yeew mongowuruur / 1匹
のサメ (非常に大きいサメで、周囲にハ
ギがいる)
- 17 Sókupwumeyéér: yeew kurukaak / 1匹
のクロアジサシ (大きな尾をもつ)
- 18 Náikánipwerh: yeew takúnaar / 1匹の
カジキマグロ
- 19 Yaitanepow: yeew pááw / 1匹のサメ
- 20 Nemayurúnúk: yeew nicchok / 1羽の鳥
- 21 Worhairúkúnong: woorh / サンゴ礁
- 22 Faspéiyén: woorh / サンゴ礁
- 23 Nómwoniyéér: fanúw / 島
- 25 Mesáineyanú: tówur / 水道
- 27 Yenóót* / エラート環礁
- 28 Wenimerów* / オリマラオ環礁
- 29 Wuwarumetaw: woorh / サンゴ礁
- 30 Náikipes: yeew yikáyiné / 1匹の魚
- 31 Náikáiniyas: ruwow tánepap / 2匹の魚
- 32 Náikiyón: ruwow woomey / 2匹のヒ
メジ

事例10 ウエスト・フェーユ島のプコフ (Pwukofin Pikené) Mg

- 1 Raikinón: yeew pwóópw / 1匹のサメ
- 2 なし: ruwow yasaf / 2羽のゲンカンド
リ (たかいに争っている)
- 3 なし: yewumw raaw / クジラの群れ (小
型のクジラ)
- 4 Tipwáisát: yeew yúúrnáp / 1匹の大き
なイセエビ
- 5 Ráfitiwa: ruwow songoong / 2匹のヒ
メジ
- 6 なし: yeew pwóópw / 1匹のサメ
- 7 なし: pwáá / 鳥・魚の群れ (上のほう
に2羽のゲンカンドリがいる)
- 9 Yayútá: woorh / サンゴ礁 (長い),
Piyánfaimwo: woorh / サンゴ礁 (色は
白っぽい)
- 11 Worhunang: woorh / サンゴ礁
- 12 なし: yewumw kúúw / イルカの群れ
- 13 なし: yeew ngáán / 1匹のサワラ
- 14 なし: yeew pwáá / 鳥・魚の群れ (ゲン
カンドリが1羽いる)
- 15 Yúniiso: yeew yasaf / 1羽のゲンカンド
リ
- 18 Maanirek: yeew sángir / 1匹のマグロ
- 19 Fayúnkárengaap: woorh / サンゴ礁 (サ
タワル島の人びとは、島の南方にある
Wenikiy とよばれるサンゴ礁で漁撈を開
始する以前、このリーフを頻繁に利用し
た)
- 22 Wenimerów* / オリマラオ環礁
- 23 なし: yeew yómó / 1羽のカツオドリ
(色は白い), なし: yeew kiyakiy / 1羽
のシロアジサシ
- 25 なし: yeew fáariyap / 1匹のエイ
- 27 Wonfairhap: woorh / サンゴ礁
- 28 なし: yeew yasaf / 1羽のゲンカンドリ
(体は黒い)
- 29 なし: yeew yómó / 1羽のカツオドリ
(腹が白い)
- 30 Yawupwapwerh: yeew yasaf / 1羽のゲ
ンカンドリ
- 31 Yikefirhmar: yeew sáyúwaanú / 1匹
のウミヘビ
- 32 Rappúngúnúk: yeew raaw / 1頭のクジ
ラ (大きい)

事例11 ウエスト・ファーフ島のプコフ (Pwukofin Pikené) Ik

- | | |
|---|----------------------------------|
| 1 Sáipén*/サイパン島 | 15 Yúniiso: yeew yasaf/1羽のゲンカンドリ |
| 2 Rácchemwai: ruwow wumwuné/2匹のアイゴ | 16 Sátáwal*/サタワル島 |
| 3 Rettánimwár: wonow wumwuné/6匹のアイゴ | 17 Wenikiy: woorh/サンゴ礁 |
| 4 Worhánipwóopw: woorh/サンゴ礁 (pwóopw という種類のサメだけがいる) | 18 不明: yeew yómó/1羽のカツオドリ (白い) |
| 5 不明: yeew pwóopw/1匹のサメ | 19 Nómwéchok*/ラモトレック環礁 |
| 8 Piik*/ピケロット環礁 | 20 Yenóót*/エラート環礁 |
| 9 Yayútá: woorh/サンゴ礁 | 22 Rátikmwai: yeew kuniing/1羽の鳥 |
| 11 不明: yeew pwóopw/1匹のサメ (頭は白く、胴体は青い) | 23 Worhánikayúsómw: woorh/サンゴ礁 |
| 12 不明: yeew takúnaar/1匹のカジキマグロ (尾の部分にココヤシの若葉製の飾りをつけている) | 27 不明: ruwow sáyúwaanú/2匹のウミヘビ |
| 13 Yikuwanap: cchon kúúw/イルカの群れ (非常に大きな群れをつくっている) | 28 Faiyew*/ガフェルト島 |
| 14 なし: yeew súúk/1羽のネッタイチョウ (白い) | 29 不明: yeew yómó/1羽のカツオドリ (白い) |
| | 30 不明: yeew yasaf/1羽のゲンカンドリ |
| | 31 Chiniyón*/テニアン島 |
| | 32 Nuuta*/ロタ島 |

事例12 サタワル島のプコフ (Pwukofiy Sátáwal) Rp

- | | |
|---|--|
| 1 Yúniiso: yeew yasaf/1羽のゲンカンドリ (羽と尾がとれてきたなくみえる) | ブリ (片腕くらいの長さ) |
| 2 Worhánipar: woorh/サンゴ礁 | 16 Yeipwimwár: yeew súúk/1羽のネッタイチョウ |
| 3 Mowuun: woorh/サンゴ礁 | 17 Naifáinúk: yeew yasaf/1羽のゲンカンドリ (色は黒で、白い斑点が体にならない) |
| 4 Piik*/ピケロット環礁 | 18 Mesórumeyéér: ruwow yaraar/2羽のコアジサシ (鳴いていない。羽がよごれてきたなく、眼の上に隆起があり、さらに眼の色は褐色である。) |
| 5 Woonipik: woorh/サンゴ礁 | 19 Mesórumeyefáng: ruwow yaraar/2羽のコアジサシ (鳴いている。眼の上に隆起がない) |
| 6 Wunowun*/ウルル島 | 20 Wenikiy: woorh/サンゴ礁 |
| 7 Pwonnap*/ブンラップ環礁 | 21 Yinanemwar: yeew fayi/1匹のエイ (fáariyap という種類で、尾のとげがない) |
| 8 Pwonowót*/プルワト環礁 | 22 Serawánimwár: yeew seraw/1匹のカマス |
| 9 Nawoniman: yeew yómó/1羽のカツオドリ | 23 Nukéisomw: yeew súúk/1羽のネッタ |
| 11 不明: ruwow raaw/2頭のクジラ (大きい), Wurówuran: woorh/サンゴ礁 | |
| 12 Sowuk*/プルスク島 | |
| 13 Worháisáifetan: woorh/サンゴ礁 | |
| 14 Niyáinewwár: yeew nisingér/1羽の鳥 (胸は白く、体は黒い。羽の端の部分は楕円形になっている) | |

- イチョウ (大きい)
 24 Nómwoniyéér: fanúw/島 (カヌーを破壊する恐ろしい力をもつ)
 25 Mesáineyanú: tówur/水道 29 Fainikárengaap: woorh/サンゴ礁
 26 Nómwéchok*/ラモトレック環礁 30 Faiyew*/ガフェルト島
 27 Wenimerów*/オリマラオ環礁 31 Maanirek: yeew sángir/1匹のマグロ
 28 Yoniwa: yewumw raaw/クジラの群れ 32 Pikené*/ウエスト・ファーフ島

事例13 サタワル島のプコフ (Pwukofiy Sátáwal) Ew

- 1 Yúniiso: yeew yómó/1羽のカツオドリ (黒っぽい), Yayútá: woorh/サンゴ礁
 2 Worháireparh: woorh/サンゴ礁
 3 Mowuun: woorh/サンゴ礁
 4 Piik*/ピケロット環礁
 5 Merheniwonipik: woorh/サンゴ礁
 6 Wunowun*/ウルル島
 7 Pwonnáp*/プンラップ環礁
 8 Pwonowót*/プルワト環礁
 9 Rhuuk*/トラック諸島
 11 Wurówuran: woorh/サンゴ礁
 12 Sowuk*/プルスク島
 13 Kútiw*/クティウ島
 14 不明: yeew pwái sepan/鳥の群れ
 15 不明: yewumw fofo/ツムブリの群れ
 16 Mesórumeyéér: ruwow paiennái/2羽の鳥 (鳴いていない)
 17 Naifáinúk: yeew yasaf/1羽のゲンカンドリ (胸は白い)
 18 Mesórumeyefáng: ruwow paiennái/2羽の鳥 (鳴いている)
 19 Yikiwemwár: yeew pwene/1匹のバラハタ (片腕くらいの長さがある)
 20 Wenikiy: woorh/サンゴ礁, Yináfitemwár: yeew pwáá/魚・鳥の群れ
 21 Yeúkúwan: yeew pááw/1匹のサメ (骨がない), Yinanemwár: yeew fááriyap/1匹のエイ (大きい)
 22 Serawánimwár: yeew seraw/1匹のカマス
 23 Nukéisomw: yeew súúk/1羽のネッタイチョウ (大きくて、羽の色は赤い)
 24 Nómwoniyéér: fanúw/島
 25 Mesáineyanú: tówur/水道
 26 Nómwéchok*/ラモトレック環礁
 27 Pwúúk: fanúw/島
 28 Yoniwa: wumui raaw/7, 8頭のクジラ (大きい)
 29 Wenimerów*/オリマラオ環礁
 30 Fayúnkárengaap: woorh/サンゴ礁, Maanirek: yeew sángir/1匹のマグロ (跳躍している)
 31 Faiyew*/ガフェルト島
 32 Nimmer: yeew sángir/1匹のマグロ (頭のうでで波しぶきをたてている), Pikené*/ウエスト・ファーフ島

事例14 サタワル島のプコフ (Pwukofiy Sátáwal) Ep

- 1 Yúniiso: yeew yasaf/1羽のゲンカンドリ (腹が白い), Yayútá: woorh/サンゴ礁
 2 Worháirhepar: woorh/サンゴ礁
 3 Mowuun: woorh/サンゴ礁
 4 Piik*/ピケロット環礁
 5 Woonipik: woorh/サンゴ礁
 6 Worháirang: woorh/サンゴ礁
 7 Worháisaw: woorh/サンゴ礁
 8 Pwonowót*/プルワト環礁
 9 Nówuwenimóng: yeew yasaf/1羽のゲンカンドリ (腹が黒い), Yonipwuk: yeew yasaf/1羽のゲンカンドリ (腹が白い)

- 11 Napwichenúk: ruwow raaw / 2頭のクジラ (オス), Pwicheinúk: yeew pááw / 1匹のサメ (メス)
- 12 Yikisepan: wonow raaw me yeew pááw / 6頭の大きなクジラと1匹の小さなサメ
- 13 Yikisera: yeew sera / 1匹のトガリエビス
- 14 Yeipwimwár: yeew súúk / 1羽のネッタイチョウ
- 15 Nóngonap: yeew cchon foofo / ツムブリの群れ
- 16 Rhúrhú: yeew kiyakiy, yeew raaw / 1羽のシロアジサシ, あるいは1頭の白いクジラ
- 17 Naifáinúk: yeew yasaf / 1羽のゲンカンドリ
- 18 Mesórumeyéér: yeew yaraar / 1羽のコアジサシ (鳴いていない)
- 19 Yikiwemwár: yeew pwene / 1匹のバラハタ, Mesórumeyefáng: yeew yaraar / 1羽のコアジサシ (鳴いている)
- 20 Yineftimwár: yeew pwáá / 魚・鳥の群れ
- 21 Yinanemwár: yeew fááriyap / 1匹のエイ (首のところに白い輪の模様がある)
- 22 Ráfiyaút: yeew sáyúwaanú / 1匹のウミヘビ (海上に浮かんでいる)
- 23 Nukéisomw: yeew súúk / 1羽のネッタイチョウ
- 24 不明: yeew yómó / 1羽のカツオドリ (羽がボロボロになっている), Nómwoniyéér: fanúw / ラモトレック環礁の1小島
- 25 Mesáineyanú: tówur / 水道
- 26 Nómwéchok* / ラモトレック環礁
- 27 Náikirerh: yeew pááw / 1匹のサメ (背びれの端が白い, サメの種類は metan)
- 28 Yoniwa: pááw / 大きいクジラ (10頭くらいいて, カヌーを壊す)
- 29 Fayúnkárengaap: woorh / サンゴ礁
- 30 Maanirek: yeew cchon sángir / マグロの群れ (跳躍している)
- 31 Fairhap: woorh / サンゴ礁
- 32 Pikené* / ウエスト・ファージュ島

事例15 サタワル島のプコフ (Pwukofiy Sátáwal) Mg

- 1 Yúniso: yeew yasaf / 1羽のゲンカンドリ (体は黒く, 尾の羽が半分ない)
- 2 Worháirhepar: woorh / サンゴ礁
- 3 不明: pwán yárengaap / カツオの群れ
- 4 Yiyoreng: woorh / サンゴ礁
- 5 Nerú: yeew súúk / 1羽のネッタイチョウ (小さい), Woonipik: woorh / サンゴ礁
- 6 Worháirang: woorh / サンゴ礁
- 7 Worháisaw: woorh / サンゴ礁
- 9 Naifáinimóng: yeew yasaf / 1羽のゲンカンドリ
- 10 Mwáramwáran kurukaak: yeew kurukaak / 1羽のクロアジサシ
- 11 なし: yeew súúk / 1羽のネッタイチョウ (海面を上下して飛んでいる)
- 12 Napwichenúk: yeew pááw / 1匹のサメ (夜, サタワル島のちかくにきてサンゴ礁でねる)
- 13 Netairá: ruwow kurukaak / 2羽のクロアジサシ (流木の両端にとまっている)
- 14 Niyáinemwár: ruwow nisingér / 2羽の鳥
- 15 Pwicheinúk: yenuw raaw / 3頭のクジラ
- 16 Nóngonap: yewumw foofo / ツムブリの群れ
- 17 Naifáinúk: yeew yasaf / 1羽のゲンカンドリ (胸は黒と白)
- 18 Mesórumeyéér: ruwow yaraar / 2羽のコアジサシ (鳴いていない)
- 19 Mesórumeyefáng: yeew yaraar / 1羽のコアジサシ (鳴いている)
- 20 Yineftimwár: yeew pwáá / 魚・鳥の群れ
- 21 Yinanemwár: yeew fááriyap / 1匹のエイ

- | | |
|---|--|
| 22 Nówurupwá: yeew pwáá/魚・鳥の群れ,
Serawánimwár: 不明 | 28 Yoniwa: yewumw raaw/クジラの群れ
(危険) |
| 23 Nukéisomw: yeew súúk/1羽のネッタ
イチョウ (大きい) | 29 なし: yeew súúk/1羽のネッタイチョ
ウ (尾が切れてない) |
| 25 Náikáinam: ruwow fáariyap/2匹のエ
イ | 30 Maanirek: yeew sángir/1匹のマグロ
(跳躍している) |
| 27 Náikirerh: yeew pááw/1匹のサメ (片
腕くらいの大きさ) | 31 Nimmer: yeew sángir/1匹のマグロ
(尾が海面上ではねている) |

事例16 ピケロット環礁のプロフ (Pwukofin Piik) Mg

- | | |
|---------------------------------|--------------------------------|
| 1 Worhánimwár: woorh/サンゴ礁 | 18 Wooniman: woorh/サンゴ礁 |
| 2 Worháirik: woorh/サンゴ礁 | 19 Worhániik: woorh/サンゴ礁 |
| 3 Tifatún: woorh/サンゴ礁 | 20 Téreng: woorh/サンゴ礁 |
| 5 Nemayúr: woorh/サンゴ礁 | 21 Worháirhepar: woorh/サンゴ礁 |
| 6 Worhánipwun: woorh/サンゴ礁 | 22 Pwápwáineemetaw: woorh/サンゴ礁 |
| 7 Sápiymenúk: woorh/サンゴ礁 | 23 Wénanút: woorh/サンゴ礁 |
| 9 Woonipik: woorh/サンゴ礁 | 25 Piyánfaimwó: woorh/サンゴ礁 |
| 11 Sápiymenón: woorh/サンゴ礁 | 27 Mowuun: woorh/サンゴ礁 |
| 12 Yayúniworh: woorh/サンゴ礁 | 28 Worhórorh: woorh/サンゴ礁 |
| 13 Worháfirh: woorh/サンゴ礁 | 29 Worhánipwóópw: woorh/サンゴ礁 |
| 14 Rhuwetányápináni: woorh/サンゴ礁 | 30 Worháfu: woorh/サンゴ礁 |
| 16 Worháirang: woorh/サンゴ礁 | 31 Worháinar: woorh/サンゴ礁 |
| 17 Worháisaw: woorh/サンゴ礁 | 32 Worháisaittó: woorh/サンゴ礁 |

事例17 ピケロット環礁のプロフ (Pwukofin Piik) Ik

- | | |
|--|--|
| 1 Worhánimwár: woorh/サンゴ礁 | 15 Wungánipar: woorh/サンゴ礁,
Worháirang: woorh/サンゴ礁 (このイ
ンフォームントは見たことがないという) |
| 2 Worhánipwun: woorh/サンゴ礁 | 16 Wooniman: woorh/サンゴ礁 |
| 3 Tiifatún: woorh/サンゴ礁 | 17 Worháisaw: woorh/サンゴ礁 |
| 4 Nemayé: woorh/サンゴ礁 | 18 Téreng: woorh/サンゴ礁 |
| 5 Worhánimám: woorh/サンゴ礁 | 19 Worhániik: woorh/サンゴ礁 |
| 6 Worhánipwurupwur: woorh/サンゴ礁,
Wunowun*/ウルル島 | 20 Worháirhepar: woorh/サンゴ礁,
Sátáwal*/サタワル島 |
| 7 Yayúnmáye: 不明 | 21 Wénanút: woorh/サンゴ礁 |
| 9 Pisirarh*/ピセラル島 | 22 Pwápwáineemetaw: woorh/サンゴ礁,
Nómwéchok*/ラモトレック環礁 |
| 11 Sápiymenón: woorh/サンゴ礁,
Pwonnáp*/プンラップ環礁 | 23 Pwápwánwenifanúw: 不明 |
| 12 Worháfirh: woorh/サンゴ礁,
Pwonowót*/プルワト環礁 | 25 Piánfaimwó: woorh/サンゴ礁 (上に砂
利がある) |
| 13 Worhánimwár: woorh/サンゴ礁 | 27 Mowuun: woorh/サンゴ礁, Faiyew* |
| 14 Rhúwetányápináni: woorh/サンゴ礁,
Sowuk*/プルスク島 | |

／ガフェルト島

- 28 Worhánipwóópw: woorh／サンゴ礁
 29 Worhátíw: woorh／サンゴ礁
 30 Worhátikiniman: woorh／サンゴ礁,
 Márianis*／マリアナ諸島

- 31 Worháirho: woorh／サンゴ礁, Nuuta*
 ／ロタ島
 32 Worháisaittó: woorh／サンゴ礁,
 Sáipén*／サイパン島

事例18 タムタム島のプコフ (Pwukofiy Tamatam) Ew

- 1 Yúranikot: yeew seraw／1匹のカマス
 (大きさは一ヒロくらいで、頭を上にもむ
 けている)
 3 Maaneté: 不明
 4 Yepóinúk: yeew cchon kúúw／イルカの
 群れ
 5 Pisirarh*／ピセラル島
 6 Faiyew*／イースト・フェーユ島
 7 Nómwin*／ノムイン環礁
 9 Yaraw*／コスラエ島
 11 Natémwéi: 不明／海藻の群れ(バラバラ
 になっている)
 12 Napérorh: niféiorh／海藻のかたまり
 (niféiorh という名称自体は貝をさすが、
 じつは海藻をさす)

- 13 Napatong: yeew wong／1匹のアオウ
 ミガメ(泳いでいる)
 14 Kútiw*／クティウ島
 15 Yettaan*／エタール環礁
 16 Yiros*／イロス島
 18 Sowuk*／プルスク島
 21 Pwonowót*／プルワト環礁
 23 Kuwmów: yeew kúúw／1頭のイルカ
 (色は褐色)
 27 Piik*／ピケロット環礁
 28 Yuwaniman: woorh／サンゴ礁
 29 Yeyúnipón: yeew seraw／1匹のカマス
 (不透明な水中で泳いでいる)
 31 Yiketikiman: 不明
 32 なし: yeew sangir／1匹のマグロ

事例19 プルスク島のプコフ (Pwukofiy Sowuk) R

- 1 Worhomwár: woorh／サンゴ礁
 2 不明: yeew yasaf／1羽のゲンカンドリ
 3 不明: yeew yamaw／1匹のカニ(泳い
 でいる)
 4 Yiyoyiwa: ruwow yinin／2羽の鳥(流
 木の両端にとまっている)
 5 Worhánipán: woorh／サンゴ礁(サメ
 がいる)
 6 Worhánipwun: woorh／サンゴ礁
 7 Sápiymenúk: woorh／サンゴ礁
 9 Woonipik: woorh／サンゴ礁
 11 Sápiymenón: woorh／サンゴ礁
 13 Wungánipar: woorh／サンゴ礁
 14 Wurówuran: woorh／サンゴ礁
 15 Fitánginimwár: ruwow yómó／2羽の
 カツオドリ
 16 Worhániik: woorh／サンゴ礁(魚が多

- い)
 17 Worháisaw: woorh／サンゴ礁
 18 Wooniman: woorh／サンゴ礁
 19 不明: yeew púngúpáanei／1羽の鳥
 20 Pwápwáineemetaw: woorh／サンゴ礁
 23 Wénanút: woorh／サンゴ礁
 25 Piánfaimwó: woorh／サンゴ礁(上部が
 白っぽい)
 27 Worhánipwóópw: woorh／サンゴ礁
 28 Worháinar: woorh／サンゴ礁(沢山の
 ウニがある)
 30 Worhátikiniman: woorh／サンゴ礁(1
 羽のコアジサシが鳴いている)
 31 Worhátik: woorh／サンゴ礁(なだらか
 な斜面になっている)
 32 Worháisaittó: woorh／サンゴ礁(沢山
 のシャコガイがある)

事例20 プルスク島のプコフ (Pwukofiy Sowuk) Ew

- | | | | |
|----|--|----|---|
| 1 | Sówukerap: yeew sángir / 1匹のマグロ | 19 | Yúnimwáretiw: yeew seraw / 1匹のカマス |
| 2 | Mashuch: seyik reerh / 10羽の小型のゲンカンドリ | 20 | Sówurik: yeew mengar / 1匹のトビウオ |
| 5 | Yiyoyionap: 不明 | 21 | Nemayúrúnúk: yeew fáariyap / 1匹のエイ |
| 6 | Nisánewaaké: yeew nimwéyngaw / 1羽の鳥 (口ばしが大きくまがっており色は黄色, 体は白, 脚は黄色) | 22 | Poranikin: yeew mwunáyinómw / 1匹のツバメウオ |
| 7 | 不明: yeew takúnaar / 1匹のカジキマグロ (小さい) | 23 | Yititiya: yeew yasaf / 1羽のゲンカンドリ |
| 9 | Yikisátiw: yeew pwáá / 魚・鳥の群れ | 25 | Maniffitiw: ruwow yasaf / 2羽のゲンカンドリ (あらそっている) |
| 11 | Yurúpwóyóng: yeew kurukaak / 1羽のクロアジサシ | 27 | Niáisengan: yeew senganangan / 1匹のセナスジベラ |
| 12 | Yúnútongotong: nimow nikirhoowur / 5羽の鳥 | 28 | Yápinmworh: woorh / リーフとリーフの間の部分 (底はよくみえない) |
| 13 | Aona: pwán yárengaap / カツオの群れ | 29 | Yikisánap: yeew sángir / 1匹のマグロ |
| 14 | Mafena: pwán fena / サヨリの群れ | 30 | Wurówuran: woorh / サンゴ礁 |
| 15 | 名前なし: yeew kúúw / 1頭のイルカ | 31 | Yápinimáefór: woorh / サンゴ礁 |
| 16 | Netomwinúk: faaw yetam / 4匹のヒラアジ | 32 | Mannérh: ruwow kiyakiy / 2羽のシロアジサシ |
| 17 | Rówukumwár: yeew mwiy / 1羽の鳥 | | |
| 18 | Yikápey: yeew raaw / 1頭のクジラ | | |

事例21 プルスク島のプコフ (Pwukofiy Sowuk) Ik

- | | | | |
|---|--|----|---|
| 1 | Sówukárhimw: yeew yómó / 1羽のカツオドリ | 11 | Yurúpwówuyóng: yeew kurukaak / 1羽のクロアジサシ (片腕くらの長さの尾をもっている。体の色は黒) |
| 2 | Mannérh: yeew kiyakiy / 1羽のシロアジサシ | 12 | Yúnútongotong: ruwow nikirhowur / 2羽の鳥 (カヌーの両側を1羽ずつがまわりながら飛んでいる。そのうちの一方は鳴いているが、他方は鳴いていない) |
| 3 | Macching: seyik reerh / 10羽の小さいゲンカンドリ | 13 | Mówuna: yeew yárengaap / 1匹のカツオ (片腕と肩から肘までの長さをあわせた長さがある) |
| 4 | Yinápeiyo: yeew cchon sepan / 鳥の群れ | 14 | Máfena: yeew fena / 1匹のサヨリ (片腕の長さがある) |
| 5 | Yiyoyionap: yeew worhááp / 1匹のトンボ (胴体は茶色で大きい) | 15 | Yúnúmwárátá: yeew seraw / 1匹のカマス (頭を垂直上にむけている) |
| 6 | Yúnnikorhan: yeew nikirhowur / 1羽の鳥 (worang の葉が枯れたときの色をしている) | 16 | Meiso: yeew pááw / 1匹のサメ |
| 7 | Nerhánimw: yeew sáyúwaanú / 1匹のウミヘビ (yegiy という木にまとわりついている) | 17 | Rówukumwár: yeew yasaf / 1羽のゲンカンドリ (プルスク島の女が島の端に |
| 9 | Yikisátiw: yeew sángir / 1匹のマグロ (大きい) | | |

- 花かざりをとりにゆくと、すでに1羽の
グンカンドリがかざりをつくって待って
いた)
- 18 Yikiperas: yeew cchon mengar / トビウ
オの群れ (非常に小さい)
- 19 Yúnúmwarútiw: yeew seraw / 1 匹のカ
マス (頭を垂直にし、海底にむけている)
- 20 Nesópwonworháisáifetán: woorh / サン
ゴ礁
- 21 Núkúnupánworháisáifetán: woorh / サン
ゴ礁
- 22 Nesópwonworháisáifetán: woorh / サン
ゴ礁
- 23 Néénikówwur: woorh / サンゴ礁
- 25 Maniffitiw: yeew yasaf / 1 羽のグンカ
ンドリ
- 27 Nówurusengan: yeew senganangan / 1
匹のセナスジベラ
- 28 Yipunimar: yeew sángir / 1 匹のマグロ
- 29 Yikisánap: yeew pwóópw / 1 匹のサメ
(人を襲わない。ゆっくり泳いでいる)
- 30 Wurówuran: woorh / サンゴ礁
- 31 Yápinimáefór: woorh / サンゴ礁
- 32 Pwóronofaaparth: woorh / サンゴ礁

事例22 プルスク島のプコフ (Pwukofiy Sowuk) Mg

- 1 Sówukerap: yeew sángir / 1 匹のマグロ
- 2 Pwonnap* / プンラップ環礁
- 3 Macchú: yeew kurukaak / 1 羽のクロ
アジサシ
- 4 Yinápeiyo: pwái sepan / 鳥の群れ
- 5 Yiyoyiyonap: yeew worhááp / 1 匹のト
ンボ
- 7 Neránimw: yeew sáyúwanú / 1 匹のウ
ミヘビ
- 9 Yikisátiw: yeew máyimén / 1 匹のマツ
ダイ (流木によくつく)
- 11 Yúrúpwówuyóng: 不明
- 12 Yúnútongotong: yeew nikirhowur / 1
羽の鳥
- 13 Yawuna: yeew yárengaap / 1 匹のカツ
オ
- 14 Peyinnota: yewumw fena / サヨリの群
れ
- 15 不明: woorh / サンゴ礁
- 16 Meisooپی: pááwnikap / 非常に大きい
サメ
- 17 Rówukumwár: (数不明の) mwiw / 鳥
- 18 Yikápey: yeew raaw / 1 頭のクジラ
- 19 Yúnúmwarútiw: yeew seraw / 1 匹のカ
マス (頭を垂直上に出している)
- 20 Nesóponworháisáifetánmeyéér: woorh
 / サンゴ礁
- 21 Núkúnupánworháisáifetán: woorh / サ
ンゴ礁
- 22 Nesóponworháisáifetánmeyefáng:
woorh / サンゴ礁
- 23 Yóngonokówwur: yeew worhááp / 1 匹
のトンボ (色は赤い)
- 25 Maniffitiw: yeew yasaf / 1 羽のグンカ
ンドリ
- 31 Yápinimáefór: woorh / サンゴ礁
- 32 Pwonowót* / プルワト環礁

事例23 プルスク島のプコフ (Pwukofiy Sowuk) Rp

- 1 Sówukárhimw: yeew sángir / 1 匹のマ
グロ
- 2 Tamatam* / タムタム島
- 4 不明: yeew súúk / 1 羽のネッタイチョ
ウ (急降下しながら飛ぶ)
- 5 Yinápeiyo: yeew pwáá / 鳥・魚の群れ
- 7 Yikiyor: yeew yóppw / 1 匹のイトヒキ
アジ
- 11 不明: faaw nikirhowur / 4 羽の鳥
- 13 Yawuna: yeew yárengaap / 1 匹のカツ
オ
- 17 Rówukumwár: yeew yasaf / 1 羽のグン

- カンドリ (腹は白い)
- 20 Sópwonomeyéér: woorh/サンゴ礁
- 21 Núkúnupan: woorh/サンゴ礁
- 22 Worháisáifetán: woorh/サンゴ礁
- 25 Maniffitiw: yeew pwáá/魚・鳥の群れ
- 27 不明: yeew senganangan/1匹のセナ

- スジベラ
- 28 不明: yeew yasaf/1羽のゲンカンドリ
- 30 Mácsón: woorh/サンゴ礁,
Wurówuran: woorh/サンゴ礁
- 31 不明: woorh/サンゴ礁

事例24 プルワト環礁のプロコフ (Pwukofin Pwonowót) Mg

- 1 Náirumoi: yeew yasaf/1羽のゲンカンドリ
- 2 Pairerh: yeew nimwéy/1匹の小さいサメ
- 3 Rááffimwár: yeew púngúpáánei/1羽の鳥
- 7 Yitniko: yeew pááw/1匹のサメ (fofoとよばれる魚, すなわちツムブリの小さい個体が近くにいて)
- 9 Yeserhuwor: yeew takúnaar/1匹のカジキマグロ
- 11 Tópwunumaan: yeew yómó/1羽のカツオドリ
- 12 Yáákimó: ruwow wumwuné/2匹のアイゴ, なし: yeew wurha/1匹のブダイ
- 13 Yáséfiaro: yeew yasaf/1羽のゲンカンドリ, なし: yeew pwái sánger/マグロの群れ
- 14 Macchú: seyik reerh/10羽の小さいゲンカンドリ, Yikopwun: nifaifai/貝(上記の10羽のゲンカンドリとおなじ場所にある)

- 15 Mannérh: yeew néérh/1匹のフグ
- 17 Yiipwún: yeew nirhokusárepwén/1羽の鳥
- 18 なし: yewumw kúúw/イルカの群れ
- 20 Fonotomwán: yeew sáyúwaanú/1匹のウミヘビ
- 21 Niwarhap: yeew yaraar/1羽のコアジサシ
- 22 Yikisepan: yeew raaw/1頭のクジラ (1頭の小さなイルカが周囲にいる)
- 23 なし: yeew takúnaar/1匹のカジキマグロ (大きい)
- 25 Yonipwuk: yeew yasaf/1羽のゲンカンドリ
- 27 なし: yeew fááriyap/1匹のエイ, Paikkóop: yeew pááw/1匹のサメ (胸びれの一方が切れてない)
- 28 Wasawen: 不明
- 29 Noniworh: pwan yárengaap/カツオの群れ
- 30 Raikániyóng: yeew raaw/1頭のクジラ (潮を吹いている)

事例25 プルワト環礁のプロコフ (Pwukofin Pwonowót) Ik

- 1 Yákiyáiserák: yeew yasaf/1羽のゲンカンドリ
- 2 Yikitona: yeew pwáá/魚の群れ, Nairumotiw: yeew yasaf/1羽のゲンカンドリ (このゲンカンドリは, プルワト環礁とその北東方向にある Yánángánap とよばれるサンゴ礁との間にある深み一帯を監視している)
- 3 Papon: 不明, Ráitiniyang: 不明,

- Mónorowa: rongorongta/海のもりあがり, Náirumoi: yeew yasaf/1羽のゲンカンドリ (ブンナップ環礁のほうをむいている), Pwonnap*/ブンラップ環礁
- 4 Nepwáireng: 不明, Nátikireng: yeew súúk/1羽のネットイチョウ (体は黄色で, 尾の長さが腕長くらいある), Wonowu*/オノ島
- 5 Pisirarh*/ピセラル島

- 6 Náchiyáng: yeew worhápináng / 1 匹のトンボ (赤い色), Fanúkúnúworh: yeew takúnaar / 1 匹のカジキマグロ (尾の部分にココヤシの若葉を巻いている), Pwukupwuk: 不明, Náiyoman: yeew súúk / 1 羽のネッタイチョウ (腹のまわりに nikirhowur と nicchok という鳥が飛びまわっている), Faiyew* / イースト・ファーフ島
- 7 Wotong: 不明, Nawienimwár: yeew wie / 魚・鳥の群れ (とくにマグロ, カツオ, ツムブリなどの魚がいる), Yanusoonuk: 不明, Nefaiworh: 不明, Firisát: 不明, Piis* / ピース島
- 9 Yeserhuworh: yeew takúnaar / 1 匹のカジキマグロ, Numwunuworh: numw / 海藻, Fitimetaw: 不明, Núkúnimmat: yeew takúnaar / 1 匹のカジキマグロ, Péirho: yeew pááw / 1 匹のサメ, Náningáirhuk: yeew kiyakiy / 1 羽のシロアジサシ, Rhuuk* / トラック諸島
- 11 Ráikimwán: yeew yikáyiné / 1 匹の魚, Newówfir: 不明, Yikániyúr: yeew yúúr / 1 匹のエビ, Yaikaniwon: yeew raaw / 1 頭のクジラ (頭を真東のほうにむけ、けっしてうごかない), Yinitémó: rurhai fayi / 2 匹のエイ (fairéenkinifé という種類のエイで、朝日がのぼると、大きいエイの下側から小さいエイがでてくる。夕方になると、この小さいエイは大きいほうのエイの下にかくれる)
- 12 Yasefáiro: yeew yasaf / 1 羽のゲンカンドリ (胸が黒い), Nemanifa: 不明, Sókonáisómw: 不明, Natémwéiyoi: níféiorh / 6~7 枚の貝 (丸い形をした貝で、円形上に配列されている), Peikiniworh: 不明, Nawukunumwar: yeew súúk / 1 羽のネッタイチョウ, Nemákireng: 不明, Namwonuk* / ナモヌーク環礁
- 13 Náyúwarap: 不明 (インフォーマント Rp の子供の名前), Yiyoyiyonap: yeew worhááp / 1 匹のトンボ, Núwanap: núwa / 波のない静かな場所
- 14 Maniyaf: yeew súúk / 1 羽のネッタイチョウ (羽をうごかしている。口は赤い), Serawáiyuuk: yeew seraw / 1 匹のカマス (1 ヒロくらの大きさがあり Yuuk という名前のリーフから小型の魚が泳いでくるのをまちかまえている)
- 15 Yineikimwár: 不明
- 16 Yinápeiyo: yeew sepan / 1 羽の鳥, Macching: wonow reerh / 6 羽の小さいゲンカンドリ, Yipwin: 不明
- 17 Sowuk* / プルスク島, Sówukárhimw: yeew yómó / 1 羽のカツオドリ, Sawumwár: yeew pááw / 1 匹のサメ (リーフ周辺にいるサメで、大きさは片腕長ある), Sówukerap: yeew takúnaar / 1 匹のカジキマグロ
- 18 Faaparh: woorh / サンゴ礁 (形は三日月: pwóropwóron)
- 19 Yapinimáefórh: mworh / リーフとリーフの間にある深み (底がみえない)
- 20 Wurówuran: woorh / サンゴ礁
- 21 Ponnoinúk: 不明, Náikánimó: 不明, Yayúniwa: 不明, Yúnúpiyón: 不明, Wusachem: 不明
- 22 Rapownomw: faai / 岩 (直径 5 メートルくらいの大きさ), Fonotomwáán: 不明, Nipisengan: 不明, Núwáinómw: núwa / 波のない静かな場所
- 23 なし: yeew yasaf / 1 羽のゲンカンドリ, なし: ruwow nikirhowur / 2 羽の鳥, Rhewena: yeew senganangan / 1 匹のセナスジベラ (大きさは、指先から肘までくらい)
- 24 Yóórupik* / ヨールピック環礁
- 25 Sátáwal* / サタワル島
- 26 Yonipwuk: yeew yasaf / 1 羽のゲンカンドリ
- 27 Wenimerów* / オリマラオ環礁, 不明:

- yeew yómó / 1羽のカツオドリ,
Wasawen: yerhai takúnaar / 1匹のカ
ジキマグロ, Yáftipayun: yeew pááw /
1匹のサメ, Nóniworh: yeew raaw / 1
頭のカジラ, Rhúwetányápinánei:
woorh / サンゴ礁
- 28 Pikené* / ウエスト・ファーユ島,
Mwárámwár: yeew kurukaak / 1羽の
クロアジサシ (大きい), Ráfiyáyút: 不
明 / うずまいている, 不明: yeew yasaf
/ 1羽のガンカンドリ, 不明: yeew
takúnaar / 1匹のカジキマグロ
- 29 Piik* / ピケロット環礁,
Pwúkúwánngáán: 不明 / 場所の名前
- 30 Nóniworh: 不明, Náikánuur: yeew
yúúr / 1匹のエビ (大きい), Nenon:
- woorh / 場所の名前 (ルアトとよばれる
リーフの上にあり, 底がみえるくらい浅
い。魚は1匹もとれない), 不明: rurhai
nikirhowur / 2羽の鳥
- 31 Naifániik: yewumw raaw / カジラの群
れ, Raikániyang: yeew raaw / 1頭の
カジラ (大きい), Fayúkitip: woorh /
サンゴ礁 (ルワトとよばれるサンゴ礁の
東端の部分) をさす)
- 32 Náikarap: ruwow woomey / 2匹のヒ
メジ, Reptiwenáfininó: woorh / サンゴ
礁 (ルワトとよばれるサンゴ礁の西端の
部分) をさす), Yinanemwár: yerhai
fááriyap / 1匹のエイ, Merhutiwen
yáfininó: 不明

事例26 プンラップ環礁のプコフ (Pwukofin Pwonnap) Mg

- | | |
|---|--|
| 1 Piitéyút: (数不明) tánepap / 魚 | いカジラ |
| 2 不明: ruwow woomey / 2匹の魚 (ヒメ
ジ) | 16 Nikemat: yeew yómó / 1羽のカツオド
リ |
| 3 Yikérurhai: 不明 | 17 Yunuinong: woorh / サンゴ礁 (プルワ
ト環礁に属する) |
| 4 Nairhutiw: yeew yasaf / 1羽のガンカ
ンドリ | 18 Sowuk* / プルスク島 |
| 5 Nicchoniman: yeew nicchok / 1羽の鳥 | 20 Fonotomwán: yeew sáyúwaanú / 1匹
のウミヘビ |
| 6 Fanukunuworh: yeew sepór / 1匹のシ
イラ (色は褐色) | 21 Wurówuran: woorh / サンゴ礁 |
| 7 Yarawngú: yeew raaw / 1頭のカジラ
(海面で ngú ngú という音をだしてい
る), Yáákimó: yeew kiyakiy / 1羽の
シロアジサシ | 22 Pwonowót* / プルワト環礁 |
| 9 Pwicheinómw: yeew yasaf / 1羽のゲ
ンカンドリ (色は白い) | 23 不明: yewumw kúúw / イルカの群れ |
| 11 Yitíniko: yeew pááw / 1匹のサメ (数
匹のツムブリがまわりを泳いでいる) | 25 不明: yeew seraw / 1匹のカマス |
| 12 Yuniwas: 不明 | 27 Paipoona: yeew kuniing / 1羽の鳥 |
| 13 Tópunmaan: yeew yómó / 1羽のカ
ツオドリ (羽がボロボロになっている) | 28 Yenáinimwur: (数不明) woomey / ヒ
メジ |
| 15 Núkúnanang: yeew masos / 1頭の小さ | 29 Nepwámetaw: pwái sepan / 鳥の群れ |
| | 30 不明: yeew takúnaar / 1匹のカジキマ
グロ (非常に大きい) |
| | 31 Yúránikot: yúúrnap / 1匹のイセエビ
(カマスの口のなかにいる) |
| | 32 Yinewimó: 不明, Neyuwamwar: 不明 |

事例27 ウルル島のプコフ (Pwukofin Wunowun) Ik

- | | |
|---|---|
| 1 Yirámónup: yefórh yápeyipey / 1本の流木 (Saweina という種類) | ジ (大きさは、指の先から二の腕の間地点まで) |
| 2 Resapwekiyaw: yeew nikirhowur / 1羽の小鳥 (鳴いている) | 16 不明: yeew takúnaar / 1匹のカジキマグロ |
| 3 Náyúrúnén: 不明 | 17 不明: (数不明) kiyakiy / シロアジサシ |
| 4 Makúr* / マゲル島 | 18 不明: yewumw kúúw / イルカの群れ |
| 5 Sakurupwór: woorh / サンゴ礁 | 19 Maanetiwi: ruwow woomey / 2匹のヒメジ |
| 6 Wonowu* / オノ島 | 20 Yákiyáiserak: yeew pááw / 1匹のサメ |
| 7 Wunanú* / オナリ島 | 21 Yikitona: yeew pááw / 1匹のサメ |
| 9 Faiyew* / イースト・フェーユ島, Sorom: yeew pááw / 1匹のサメ (niréré という種類で、色はウコンのように黄色い。かつてプルワトの人が殺したが、またあらわれた。) | 23 Pisia: 不明 |
| 11 Pisirarh* / ピセラル島 | 23 Wotong: woorh / サンゴ礁 |
| 12 Fainiyas: yeew faai / 1つの岩 (サンゴ礁ににている。かつて近くにいった人がカヌーのかいでこぎ、棒で岩をつついて進んだ) | 25 Meroppwun: woorh / サンゴ礁 |
| 13 Wurupasenong: yeew súúk / 1羽のネッタイチョウ (尾は1本) | 27 Wunutánimwár: yefórh yápeyipey / 1本の流木 (Wonótum という種類) |
| 14 Yikimaan: yerhai pwene / 1匹のバラハタ, Natikireng: yerhai súúk / 1羽のネッタイチョウ (尾は2本で、体の色は黄色) | 28 Náikipwerh: yeew pááw / 1匹のサメ (頭を西にむけている) |
| 15 Maaneté: ruwow woomey / 2匹のヒメ | 29 Wurusa: yeew raaw / 1頭のクジラ (頭は東をむいている) |
| | 30 不明: yeew nikirhowur / 1羽の小鳥 |
| | 31 Yiráitór: yeew kuniing / 1羽の鳥 (右脚踏实かない。腹は黒く、この鳥は Nayún panuwnap, すなわちパリュウの子供と称される) |
| | 32 Fanúkúnúworh: yeew nicchok / 1羽の鳥 (鳴いていない) |

事例28 ウルル島のプコフ (Pwukofin Wunowun) Ew

- | | |
|---|---|
| 1 Fanúkúnúworh: yeew wurha / 1匹のブダイ | はボナベに流れついた) |
| 2 Rápwekiyaw: yeew nicchok / 1羽の小鳥 (鳴いている) | 9 Nerhéhé: woorh / トラック諸島のモエン島にあるサンゴ礁 |
| 3 Rorhoroorh: yeew mwiw / 1羽の鳥 | 10 Pisirarh* / ピセラル島 |
| 4 Makúr* / マゲル島 | 11 Fayúnias: woorh / サンゴ礁 (ウルル島で木にのぼるとみえる。大きな波があり、航海に危険な場所) |
| 5 Sakurhupwór: woorh / サンゴ礁 | 12 Yikimaan: 不明 |
| 6 Wonowu* / オノ島 | 13 Wonowurupas: yeew súúk / 1羽のネッタイチョウ |
| 7 Wunanú* / オナリ島 (この島の人が wuunimurhowuwen という流木漁でつかううけに Yinatukupwin という名のヤニューをいれ、海にすてた。そのヤニュー | 14 Rhátíyór: yeew yasaf / 1羽のグンカンドリ |

- | | |
|---|---|
| 15 なし: yeew yómó / 1羽のカツオドリ | ンドリ |
| 16 なし: yeew cchon kúúw / イルカの群れ
(その上に1羽のゲンカンドリがいる) | 29 なし: yeew pwán yómó / カツオドリの
群れ (yómótop という種類で、けっして
水浴びをしないので、体はきたない褐色
をしている) |
| 17 Maaneté: ruwow woomey / 2匹のヒメ
ジ | 30 Yiráitor: mesáisáát / 波 (tówer とよば
れる腰布にあるような模様をしている) |
| 25 Neságinwa: pinogunpwai / 竹の流木
(束になっており、1カ所から動かない) | 31 Wursa: ruwow raaw / 2頭のクジラ |
| 27 Náikipwai: yeew yúur / 1匹のエビ(大
きい) | 32 Neseppikinyaw: yeew nicchok / 1羽の
鳥 (鳴いていない) |
| 28 Yawurutiw: yeew yasaf / 1羽のゲンカ | |

事例29 ウルル島のプコフ (Pwukofin Wunowun) Rp

- | | |
|--|---|
| 1 不明: yeew yasaf / 1羽のゲンカンドリ | Nawurumetaw: yeew yasaf / 1羽のグ
ンカンドリ |
| 2 Rápwekiyaw: yeew nicchok / 1羽の鳥
(鳴いている) | 20 Pwonowót* / プルワト環礁 |
| 3 Yechuyenmoyun: yeew pááw / 1匹の
サメ | 21 不明: yeew yómó / 1羽のカツオドリ
(色は白い) |
| 4 Makúr* / マゲル島 | 22 不明: yeew takúnaar / 1匹のカジキマ
グロ, 不明: yeew fáariyap / 1匹のエ
イ, 不明: woorh / サンゴ礁, Piik* / ピ
ケロット環礁 |
| 5 Yipis: faai / 岩 | 23 Merópwun: woorh / サンゴ礁 |
| 6 Wunowu* / オノ島 | 25 Naiyepwai: yefórh rhapinipwaa / 1本
の流木 (竹), Yawurhutiw: yeew yasaf
/ 1羽のゲンカンドリ, Pisia: woorh /
サンゴ礁 |
| 7 Wunanú* / オナリ島 | 27 Nikipei: yeew raaw / 1頭のクジラ,
Wurusowmang: 不明, Yáfitipayún:
yeew pááw / 1匹のサメ, Wotong:
woorh / サンゴ礁 |
| 9 Nerhéhé: tówur / 水道 | 28 Piafo: woorh / サンゴ礁 |
| 10 Pisirarh* / ピセラル島 | 29 不明: yeew takúnaar / 1匹のカジキマ
グロ, Worhaninam: woorh / サンゴ礁 |
| 11 Worháitor: woorh / サンゴ礁,
Worhánipwá: woorh / サンゴ礁,
Rayúmwáne: yeew raaw / 1頭のクジラ | 30 Wurutaitor: yeew takúnúworh / 1匹の
ダツ |
| 12 不明: ruwow nikirhowur / 2羽の鳥,
Nisonong: ruwow wumwuné / 2匹の魚
(アイゴ), Firisát: yeew kuniing / 1羽
の鳥 (流木の上にとまっている。脚は2
本ある), Rhuuk* / トラック諸島 | 31 Pirheyefórh: yeew kuniing / 1羽の鳥
(流木のうえにとまっている。脚は片方
しかない) |
| 13 不明: yeew kuniing / 1羽の鳥 | 32 Resapwekiyaw: yeew nicchok / 1羽の
鳥 (鳴いていない) |
| 14 Náipwonur: faaw raaw / 4頭のクジラ | |
| 15 Netaponomwár: yeew kuniing / 1羽の
鳥 | |
| 16 Naiwonap: yeew pááw / 1匹のサメ | |
| 17 不明: yeew takúnaar / 1匹のカジキマ
グロ | |
| 18 不明: yeew kuniing / 1羽の鳥,
Nainikit: yeew pááw / 1匹のサメ | |
| 19 Pwonnáp* / プンナップ環礁, | |

事例30 トラック諸島のプロフ (Pwukofin Rhuuk) Ik

- | | |
|---|--|
| 1 Nómwin*/ノムイン島 | ビス |
| 2 Wunanú*/オナリ島 | 19 Naurumetaw: yeew yasaf / 1羽のゲンカンドリ (色は白い) |
| 3 Namwochis*/ナモチス島 | 20 Napérorrh: numunuworh / サンゴ礁にある海藻 (napérorrh という丸い貝の形をしており, 色は黒い) |
| 4 Ruwa: fanúw / ルワ島 (場所不明) | 21 Natémwéi: niférorrh / 貝 (かたまりになっている) |
| 5 Mwirhiné* / ムリノ環礁 | 22 Sowuk* / プルスク島 |
| 6 Tonomwár: fanúw / 島 (場所不明で, タバコが島に沢山あるという) | 23 Resátikimwiy: nimow mwiw me nimow kuniing / 5羽のムイ鳥と5羽のクニン鳥 |
| 7 Sówuwareng: yeew pwene / 1匹のバラハタ (色は黄色) | 25 Náningáirhuk: yeew kiyakiy / 1羽のシロアジサシ |
| 8 Worhónuk* / オロルーク環礁 | 27 Niyáinewówufirh: yeew mwárefarh / 1匹のミヤコテング (口が海面からでている。体は黄色で腹は雨をむいている) |
| 9 Fónopei* / ポナベ島 | 28 Pisisefang: ruwow nikirhowur / 2羽の鳥 (1羽は鳴いており, もう1羽は鳴いていない) |
| 11 Nemé* / ネマ島 | 29 Pisirarh* / ピセラル島 |
| 12 Pisemar: fanúw / 島 | 30 Makúr* / マグル島 |
| 13 Namwonuk* / ナモヌク環礁 | 31 Faiyew* / イースト・フェユ島 |
| 14 Worhánikáiné: yeew yikáiné / 1匹の魚 | 32 Worhánifóór: woorh / サンゴ礁 (wuufóór というブダイが棲息する) |
| 15 Yetiniyóngmwár: ruwow mwárefarh / 2匹のミヤコテング (たかいかいにいる) | |
| 16 Neweyóng: yeew mwárefarh / 1匹のミヤコテング (色は黄色) | |
| 17 Nepwanefanúw: yeew nipwoipwok / チョウ (大きさは, 両手をあわせてひろげたときの幅くらい) | |
| 18 Yetiniserá: yeew sera / 1匹のトガリエ | |

事例31 トラック諸島 (モエン島) のプロフ (Pwukofin Ruuk) Mg

- | | |
|---|---|
| 1 Nómwin* / ノムイン島 | 15 Neweyóng: ruwow mwárefarh / 2匹のミヤコテング |
| 2 Wunanú* / オナリ島 | 16 Yetiniyóng: yeew mwárefarh / 1匹のミヤコテング |
| 4 Ruwó: fanúw / 島 | 17 Nepwanefanúw: koos / 大きくて白っぽいチョウ |
| 5 Mwurhiné* / ムリノ環礁 | 18 Yetiniserá: yeew sera / 1匹のトガリエビス |
| 6 Tonomwár: woorh / サンゴ礁 | 19 Nawurhumetaw: yeew yasaf / 1羽のグンカンドリ |
| 9 Nesáifitiw: yeew yómó / 1羽のカツオドリ, Yikipóómwár: yeew néérh / 1匹のフグ, 不明: yeew pwurupwur / 海の泡 | 20 Worhainé / サンゴ礁 |
| 11 Yemwowa: yeew cchon yetam / 約10匹のヒラアジ | 21 Napérorrh: yeew niférorrh / 1個の貝で, 海の上に浮かんでいる。 |
| 12 Worhánisawrang: woorh / サンゴ礁 | 22 Natémwéi / 沢山の貝 (niférorrh という |
| 13 Namwonuk* / ナモヌク環礁 | |
| 14 Worhánipaino: woorh / サンゴ礁 | |

- | | |
|---|--|
| 種類) | 鳥 (鳴いている), 不明: yeew nisingér / 1羽の鳥 |
| 23 Rhesátikimwiy: yeew kuniing / 1羽のクニン鳥で、鳴いていない。 | 28 Pisisefang: wonow nikirhowur / 6羽の鳥 |
| 25 Sówumwónonong: yeew máám / 1匹のタレクチベラ, Náningáirhuk: yeew kiyakiy / 1羽のシロアジサシ | 29 Pisirarh* / ピセラル島 |
| 27 Niáínewówufirh: yeew kuniing / 1羽の | 30 Wonowu* / オノ島 |
| | 31 Faiyew* / イースト・ファーク島 |
| | 32 不明: woorh / サンゴ礁 |

事例32 トラック諸島 (モエン島) のプロコフ (Pwukofiy Rhuuk) R

- | | |
|--|--|
| 4 不明: yeew yómó / 1羽のカツオドリ | (metan という種類。ココヤシの果肉を海に投げると、このサメが近づいてくる) |
| 6 不明: faaw nikirhowur / 4羽の鳥 | |
| 9 Yikepwung: yeew pááw / 1匹のサメ (metan という種類) | 29 不明: yeew wong / 1匹のアオウミガメ (mon とよばれる未成熟段階のもの) |
| 12 不明: yeew pwene / 1匹のバラハタ | 30 不明 / サンゴ礁 (大きさは高さ12メートルくらいある) |
| 19 Partet: ruwow niyoomá / 2匹のカワハギ | 31 Náikesúk: yeew súúk / 1羽のネッタイチョウ |
| 21 Ripwiyong / サンゴ礁 | |
| 25 Péirhoo: yeew pááw / 1匹のサメ | |

事例33 ロサップ環礁のプロコフ (Pwukofin Nésópw) R

- | | |
|--|--|
| 1 Wunanú* / オナリ島 | 17 Nácchenong: yeew yasaf / 1羽のグンカンドリ (腹の部分に白い斑点がある) |
| 2 Mwirhiné* / ムリノ環礁 | 19 Nácchewow: yeew yasaf / 1羽のグンカンドリ (腹に白い斑点がない) |
| 5 Tonomwár: fanúw / 島 | 20 Worhánipitiw / サンゴ礁 |
| 6 不明: yeew takúnaar / 1匹のカジキマグロ, Worhónuk* / オロルーク環礁 | 22 Náikánunwar: yeew pwin yetam / ヒラアジの群れ |
| 7 Fónopei* / ポナベ島 | 24 Sowuk* / プルスク島 |
| 9 Nepwáyow: núwa / 波のない静かな場所 | 27 Yinétúnúmó: ruwow mengar / 2匹のトビウオ (夜間でも光ってみえる) |
| 13 Yemwowa: yeew yóppw / 1匹のイトヒキアジ (非常に大きい) | 28 Rhuuk* / トラック諸島 |
| 14 Netachima: ruwow mwárefarh / 2匹のミヤコテング, Worhánipitá: woorh / サンゴ礁 | 29 Nemé* / ネマ島 |
| 16 Namwonuk* / ナモスク環礁 | 31 Nómwin* / ノムイン島 |

事例34 オロルーク環礁のプロコフ (Pwukofin Worhónuk) Mg

- | | |
|---------------------------------|---|
| 1 Faimwerang: faai / 岩 (非常に大きい) | タイマイが棲息する) |
| 2 Yerharh: faai / 岩 (非常に大きい) | 7 Worhánipwáiyón: woorh / サンゴ礁 (pwáiyón はクロシンジュガイ) |
| 3 Rhanu: faai / 岩 (非常に大きい) | 9 Worhánikeriker: woorh / サンゴ礁 (nikeriker はチョウチョウウオのこと) |
| 4 Worháisefang: woorh / サンゴ礁 | |
| 5 Worháisipwunuw: woorh / サンゴ礁 | |
| 6 Wumunukoos: pii / 砂地 (穴が1つあり, | 11 Fónopei* / ポナベ島 |

秋道 航海術と海の生物

- | | | | |
|----|---|----|-------------------------|
| 12 | Worhánikiyót: woorh/サンゴ礁 | 21 | Namwonuk*/ナモヌク環礁 |
| 13 | Peráina: 不明/島かもしれない | 24 | Rhuuk*/トラック諸島 |
| 14 | Yingárhik*/ンガティック環礁 | 25 | Pwonnáp*/ブンラップ環礁 |
| 17 | Núkúworh*/ヌクオロ環礁 | 27 | Faiyew*/イースト・ファーユ島 |
| 18 | Núkúnor*/ルクノール環礁 | 29 | Mwirhiné*/ムリノ環礁 |
| 19 | Yettaan*/エタール環礁 | 30 | Worhánimám: woorh/サンゴ礁 |
| 20 | Nénuur: yeew pwáá?/鳥の群れ(鳥が輪をつくっており、その中心に別の鳥が1羽いる) | 31 | Faimeyóór: woorh/サンゴ礁 |
| | | 32 | Fairhan: faai/岩(非常に大きい) |

事例35 オロルーク環礁のプロフ (Pwukofin Worhónuuk) Ep

- | | | | |
|----|---|----|---|
| 1 | Faimwerang: faai/岩 | 19 | Yettaan*/エタール環礁 |
| 2 | Rhánu: woorh/サンゴ礁 | 21 | Yapwong/ncemetaw/ (ナモヌク環礁とロサップ環礁との間にある海域の名称) |
| 3 | Yerharh: woorh/サンゴ礁 | 22 | Worhánipitiw: woorh/サンゴ礁 |
| 4 | Worháisefang: woorh/サンゴ礁 | 23 | Nésópw*/ロサップ環礁 |
| 5 | Worháisipwúnúw: woorh/サンゴ礁 | 24 | Rhuuk*/トラック諸島 |
| 6 | Neewumwunokoos: woorh または pii/サンゴ礁または砂地(タイマイの繁殖場) | 25 | Worhánipwiniméén: woorh/サンゴ礁 (méén とよばれるマツカサウオの種類が多くいる) |
| 7 | Worhánipwáiyón: woorh/サンゴ礁 (pwáiyón はクロシングジュガイ) | 27 | Nómwin*/ノムイン島 |
| 9 | Worhánikeriker: woorh/サンゴ礁 (nikeriker, すなわちチョウチョウウオが多い) | 28 | Makurhunkáiné: 不明/島と島の間における場所の名称 (yikáiné とよばれる魚が多い) |
| 11 | Fónopei*/ポナペ島 | 29 | Mwirhiné*/ムリノ環礁 |
| 12 | Worhánikiyót: woorh/サンゴ礁 | 30 | Worhánimám: woorh/サンゴ礁 (máám とよばれるタレクチベラが多くいる) |
| 13 | Peráina: pii/砂地 | 31 | Fairhan: faai/岩(非常に大きい) |
| 14 | Ngátik*/ンガティック環礁 | 32 | Faimeyóór: faai/岩 |
| 15 | Wonapaar: woorh/サンゴ礁 | | |
| 16 | Worhánipwór: woorh/サンゴ礁 | | |
| 17 | Núkúworh*/ヌクオロ環礁 | | |
| 18 | Núkúnor*/ルクノール環礁 | | |

事例36 オロルーク環礁のプロフ (Pwukofin Worhónuuk) Ik

- | | | | |
|---|---|----|--|
| 1 | Fairhan: faai/岩 | 7 | Worháisipwúnúw: woorh/サンゴ礁, Neewumwunokoos: pwán maan/鳥の群れ |
| 2 | Faimeyóór: faai/岩 | 9 | Worhánikeriker: woorh/サンゴ礁 |
| 3 | Faimwerhang: faai/岩 | 11 | Fónopei*/ポナペ島 |
| 4 | Worháisefang: woorh/サンゴ礁 | 12 | Peráina: fanúw/ペライナ島 |
| 5 | Yerharh: woorh/サンゴ礁 | 13 | Yingárhik*/ンガティック環礁 |
| 6 | Rhánu: woorh/サンゴ礁(1匹のpwóopwという種類のサメがこのサンゴ礁の上を泳いでいる) | 14 | Worhánipwáiyón: woorh/サンゴ礁 |

- (ヤロシンジュガイが多い)
- 15 Worhánipwór: woorh/サンゴ礁
- 16 Pwór: woorh/サンゴ礁
- 17 Núkúworh*/スクオロ環礁
- 18 Núkúnor*/ルクノール環礁
- 19 Kutiw*/クティウ島
- 20 Neenuurh: rongonrongon maan/鳥の群 (白い鳥が丸くなって飛んでいる。その真ん中に1羽のゲンカンドリがいる。その鳥の腹は白い)
- 21 Namwonuk*/ナモスク環礁
- 22 Worhánipitá: woorh/サンゴ礁
- 23 Nemé*/ネマ島
- 24 Rhuuk*/トラック諸島
- 25 Písánoworháfang: fanúw/島 (場所不明)
- 27 Nómwin*/ノムイン環礁
- 28 Wunanú*/オナリ島
- 29 Mwirhiné*/ムリノ環礁
- 30 Worhánimám: woorh/サンゴ礁 (máám という魚が多くいる)
- 31 Rofainuk: yeew kúús/1匹のタコ (小さい)
- 32 Rofanimwár: yeew kúús/1匹のタコ (大きい), Tonnemwár: fanúw/島

文 献

秋道智彌

- 1980 「“嵐の星”と自然認識——サタワル島における民族気象学的研究——」『季刊人類学』11(4): 1-51。
- 1981a 「Satawal 島における伝統的航海術——その基本的知識の記述と分析——」『国立民族学博物館研究報告』5(3): 617-641。
- 1981b 「魚・イメージ・空間——サタワル島民の航海術における位置認識のしかたについて——」『季刊人類学』12(2): 3-46。
- 1981c 「“悪い魚”と“良い魚”——Satawal 島における民族魚類学——」『国立民族学博物館研究報告』6(1): 66-133。
- 1984 「サタワル島における伝統的航海術の研究——島嶼間の方位関係と海域名称——」『国立民族学博物館研究報告』9(4): 651-709。

AKIMICHI, Tomoya and SAUCHOMAL Sabino

- 1982 Satawalese Fish Names. *Micronesica* 18: 1-34.

ALKIRE, William H.

- 1970 Systems of Measurement on Woleai Atoll. *Anthropos* 65: 1-73.

ANDERSON, Eugene N. Jr.

- 1972 The Ethnoichthyology of the Hong Kong Boat People. In Lou Tsu-K'uang (ed.), *Essays on South China's Boat People, Asian Folklore and Social Life Monographs Vol. 29*, The Orient Cultural Service.

ELBERT, Samuel H.

- 1972 *Puluwat Dictionary*. Pacific Linguistic Series C. No. 24. Department of Linguistics, Research School of Pacific Studies, The Australian National University.

GLADWIN, Thomas

- 1970 *East is a Big Bird—Navigation and Logic on Puluwat Atoll*. Harvard University Press.

GOODENOUGH, Ward H.

- 1953 *Native Astronomy in the Central Carolines*. University of Pennsylvania.

LEWIS, David.

- 1975 *We, the Navigators*. The University Press of Hawaii.

QUACHENBUSH, Edward M.

- 1968 *From Sonsorol to Truk: A Dialect Chain*. Ph.D. Dissertation, University of Michigan. University Microfilm International.

RIESENBERG, Samuel H.

1976 The Organization of Navigational Knowledge on Puluwat. In Ben R. Finney (compiled.), *Pacific Navigation and Voyaging* (Polynesian Society Memoir 39), The Polynesian Society Inc., pp. 91-128.

SAUCHOMAL, Sabino

1982 *Personal communication.*

附表1 スター・コンパス上の方位名称とコンパス方位

方位番号	サタワル語名	コンパス方位
1	fúúsumwakút	0°
2	táán máyinápánéfáng	14°
3	táán wéné	27°
4	táán yúkúniik	33°
5	táán méén	51°
6	táán mwáárikár	65°
7	táán wuun	73°
8	táán páyiyefáng	79°
9	táán máyina	81°
10	táán páyiyéér	83°
11	táán yéniyén	91°
12	táái sárepwén	98°
13	táái tumwur	117°
14	táán mesarúw	127°
15	táánupw	154°
16	machimeyas	166°
17	wenewenenupw	180°
18	machimenetow	193°
19	tupwunupw	206°
20	tupwun mesarúw	233°
21	tupwui tumwur	243°
22	tupwui sárepwén	252°
23	tupwun yéniyén	269°
24	tupwun páyiyéér	276°
25	tupwun máyina	279°
26	tupwun páyiyefáng	281°
27	tupwun wuun	287°
28	tupwun mwáárikár	294°
29	tupwun méén	309°
30	tupwun yúkúniik	327°
31	tupwun wéné	333°
32	tupwun máyinápánéfáng	346°